中核市に関する住民アンケート調査結果報告書

(2 回目)

久留米大学医学部環境医学教室

星子 美智子　原 邦夫　石竹 達也

2008 年 10 月実施

目次

１．はじめに---------- 1
２．方法 ---------- 1
３．結果および考察 ---------- 2
４．まとめ ---------- 47
５．参考文献 ---------- 49
６．2 回目住民アンケート調査用紙

１．はじめに

我々は，政策や施策や事業が人の健康にどう影響をもたらすか，健康概念を個人から社会全体のレベルまで広げ，健康を決定する因子を抽出し，その影響がポジティブであるのかネガティブであるのか，その確からしさはどうであるか，最終的にはよい面をより伸ばし悪い面を出来るだけ縮小させるような提案・提言を行い公共政策決定の質の向上を上げる，といったEU諸国で広く行わせている HIA（Health Impact Assessment;健康影響評価）[1)2)3)]の手法を用いて調査研究を行っている。

本研究の目的は，HIAの日本適用研究の一環として2008年4月から施行された久留米市の中核市政策により市民の生活に及ぼす健康影響を評価することであり，6ヶ月間での市民の変化を評価することである。

2008年4月に久留米市は中核市に移行,中核市移行に伴い市民の健康への影響が危惧された。第1回目の中核市に関する住民アンケート調査では，2008年3月にインターネットを用いて久留米市民・福岡県民・久留米市同様に最近中核市となった青森市民を対象に行った。第1回目の結果では，中核市移行直前に調査を行ったにもかかわらず、「中核市」の認知度が6割と低く，住民の健康意識は高いものであったが実際に健康教室などに参加する割合は低いものであった。また，中核市以前の1市４町合併により北野地区での保健活動が低下した意見を多く認めた[4)]。

今回、久留米市が中核市となり6ヶ月経過した2008年10月現在，久留米市市民の中核市に関する意識調査に関して一部質問内容を追加して再度インターネットを用いて実施した。

２．方法

2.1　アンケート調査対象地区

住民アンケートの対象地区は，久留米市全域とし，対象年齢は20歳以上とした。

2.2　アンケート調査内容

アンケートの設問数は全部で23項目あり，その内8項目は“その他”の欄を設けて自由記載とした。設問内容は，Q1:「アンケート(前回・今回)返答回数」，Q2:「中核市の認知度」，Q3:「中核市情報入手手段」，Q4：「中核市理解度」，Q5:「中核市への期待」，Q6:「中核市になり実感した事柄」，Q7:「新設保健所の認知度」，Q8:「新設保健所の設置場所認知度」，Q9:「新設保健所への期待」，Q10:「新設保健所の利用業務内容」，Q11:「新設保健所の活性化有無」，Q12:「活性化された保健所の具体例」，Q13～Q15:「健康づくりについて」，Q16:「“健康づ

くり推進委員”の認知度」，Q17～Q20:「保健師について」，Q21～Q23:「校区担当制の保健活動について」，であった。

2.3　アンケート調査用紙の送付・回収と調査期間

前回と同様にインターネットによるアンケート調査（株式会社インテージ・インタラクティブ）を行った。前回同様にインターネットを利用し，かつインターネット会社に登録しているモニター住民に限定したアンケート調査となった。

アンケート調査期間は平成 20 年 10 月 3 日から 10 月 6 日の 4 日間とした。

３．結果及び考察

3.1　アンケート調査の回収率

アンケート依頼数は 1,250 件，有効回答数は 494 件（39.5%），回答完了数は 502 件（回収率:40.2%）であった。

3.2　アンケート回答者の特徴

図 1 に前回もアンケートに回答した人の割合，図 2 に回答者の性別による年代の割合，図 3 に回答者の居住地区，表１に回答者の職種を示した。前回もアンケートに回答した人の割合は全体の約 3 割であり，年代では 40 代が多く，約 4 割を占めていた。今回の回答者は、前回同様に男女とも 30～40 代の人が多く，全体の約 6 割強を認めていた。回答者の居住地区は，最も多かったのが西鉄駅の周囲で大学や高校が隣接している野中町（31 人），続いて新興住宅地が多くなった津福町（30 人），商業施設が立ち並ぶ合川町（29 人）であった。

職種は前回のアンケート同様に会社員の割合が最も多く 132 人（全体の 26.7%），続いて専業主婦が 71 人(14.4%)，非正規雇用者(パート・アルバイト・フリーター)が 52 人(10.5%)であった。

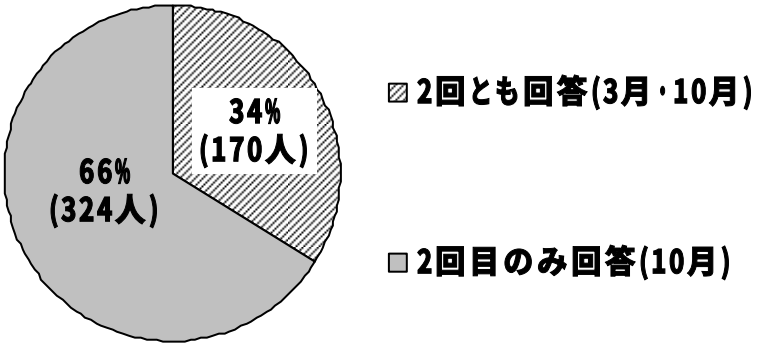


図１　アンケート調査を受けた回数

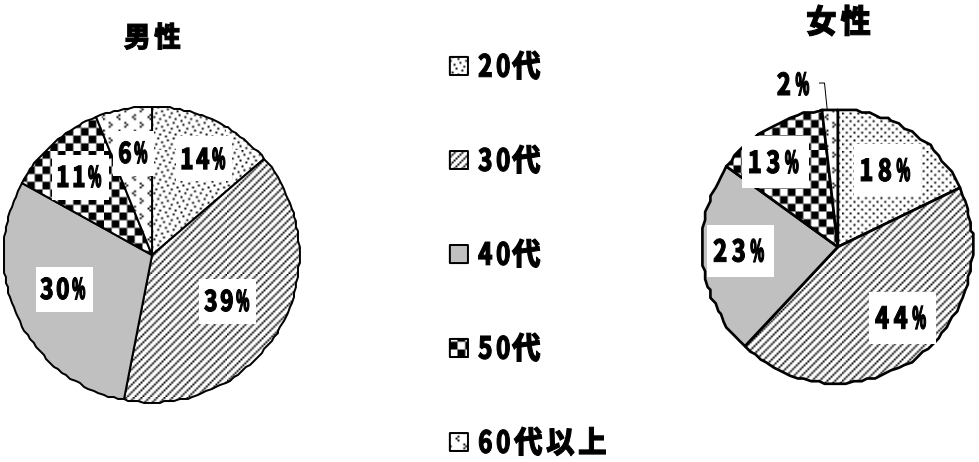


図２　回答者の性別・年代別割合

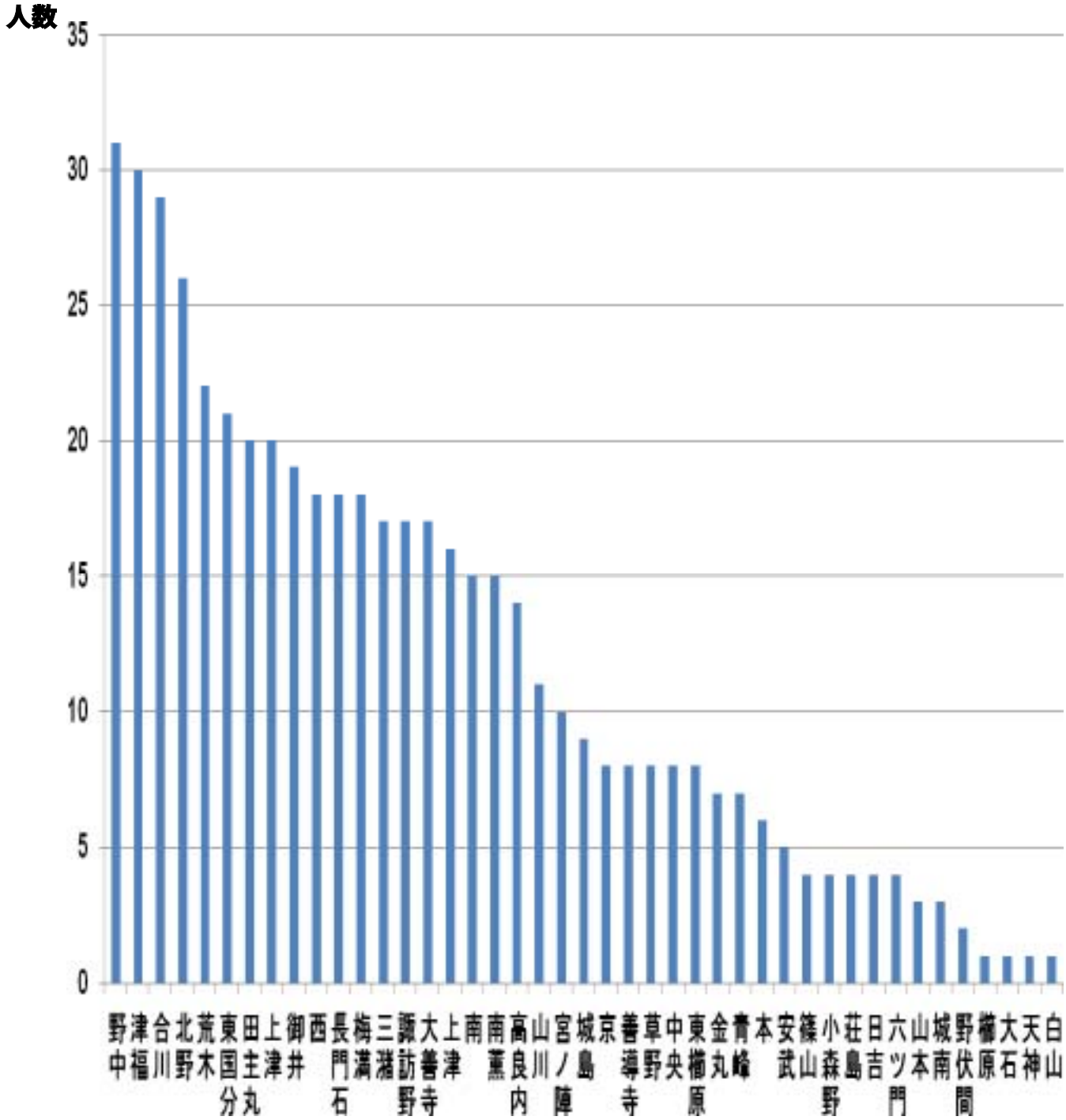


図３　回答者の居住地(町名)

表１　回答者の主な職種

回答者の主な職種	割合（%）
会社員(管理職以外の正社員)	26.7%
専業主婦	14.4%
パート・アルバイト・フリーター	10.5%
自営業(農林漁業を除く)	9.1%
公務員・非営利団体職員	6.1%
会社員(管理職)	5.5%
派遣・契約社員	4.9%
学生(予備校生も含む)	4.7%
無職・定年退職	3.8%
会社役員・経営者	3.6%
その他	2.4%
その他医療関係	2.0%
教職員・講師	2.0%
看護師	1.2%
薬剤師	1.0%
開業医・勤務医	0.8%
SOHO	0.8%
農林漁業	0.4%

3.3　アンケート回答の特徴

3.3.1　「中核市」の認知度

図 4 に久留米市が中核市になったことへの認知度を表している。中核市となり 6 ヶ月が経過，「中核市」の認知度調査では，約 8 割の人が認知している結果を得た。年代別では，男女とも 50 代以上から認知度が高くなっていた。

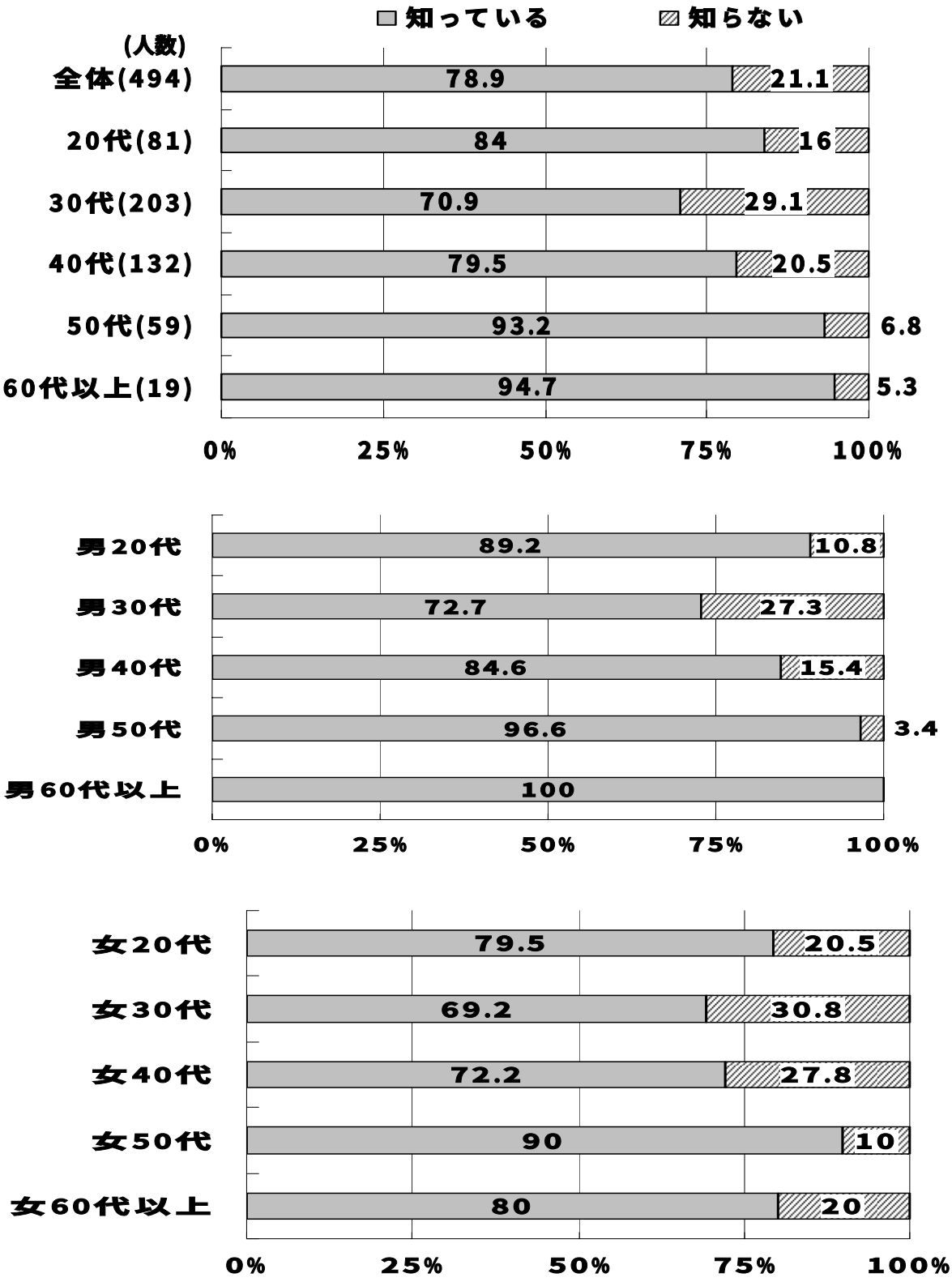
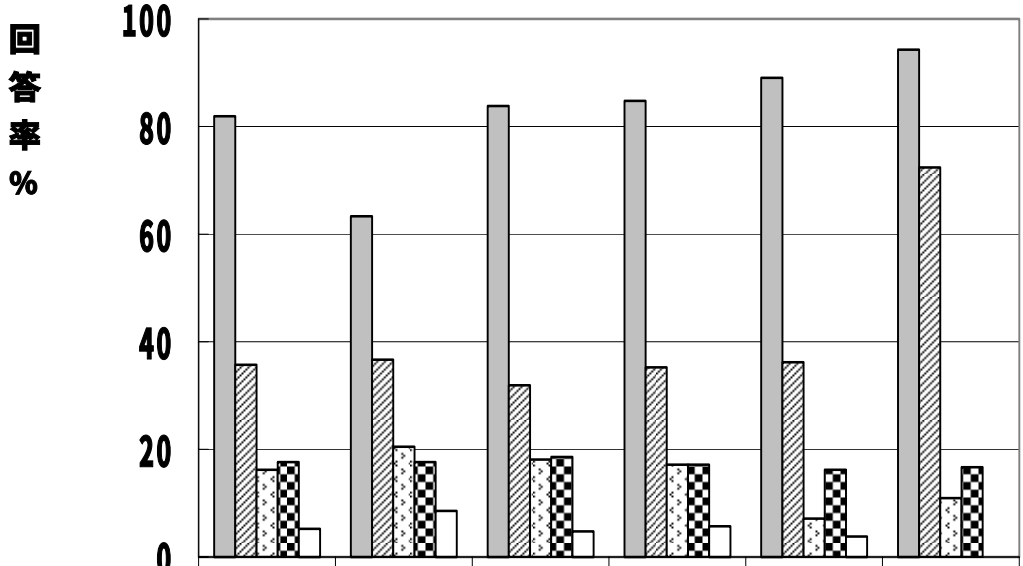

知っている
知らない
(人数)
全体(494)
78.9
21.1
20代(81)
84
16
30代(203)
70.9
29.1
40代(132)
79.5
20.5
50代(59)
93.2
6.8
60代以上(19)
94.7
5.3
0%
25%
50%
75%
100%
男20代
89.2
10.8
男30代
72.7
27.3
男40代
84.6
15.4
男50代
96.6
3.4
男60代以上
100
0%
25%
50%
75%
100%
女20代
79.5
20.5
女30代
69.2
30.8
女40代
72.2
27.8
女50代
90
10
女60代以上
80
20
0%
25%
50%
75%
100%

図４　「中核市」認知度

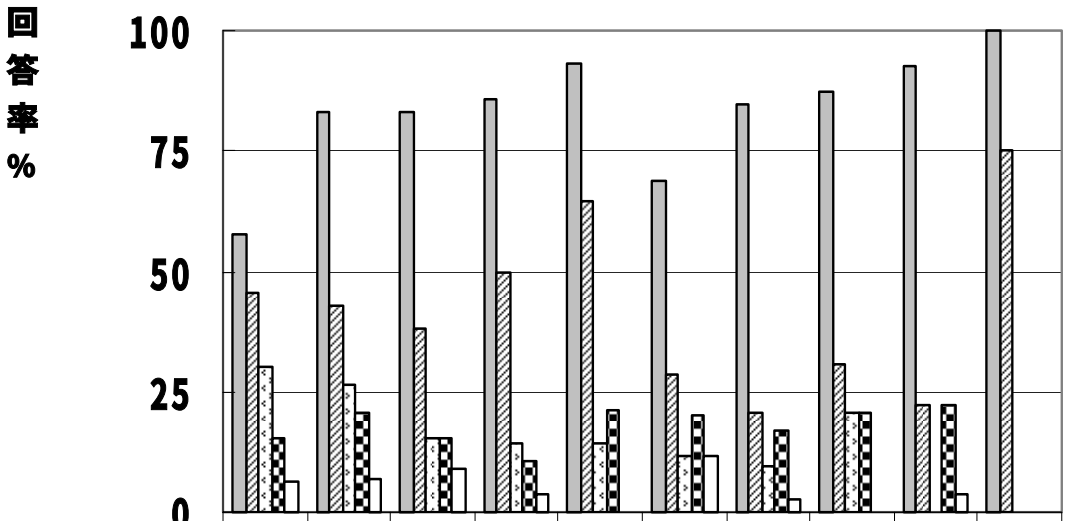
3.3.2　「中核市」の情報入手手段

「中核市」の情報入手手段について，図 5 に年代別意見，図 6 にはさらに男女別に分けた意見，表 2 にはその他の少数意見を示した。前回の結果と著変は無く，入手手段として最も多かったのは，広報誌（市政だよりなど）であった。



(人数)	全体 (390)	20代 (68)	30代 (144)	40代 (105)	50代 (55)	60代以上 (18)
広報誌（市政だよりなど）	81.8	63.2	84	84.8	89.1	94.4
新聞・TV	35.9	36.8	31.9	35.2	36.4	72.2
ポスター	16.4	20.6	18.1	17.1	7.3	11.1
知人・町内会から	17.7	17.6	18.8	17.1	16.4	16.7
その他	5.4	8.8	4.9	5.7	3.6	0

図 5　「中核市」情報入手手段（複数回答）



	男20代	男30代	男40代	男50代	男60以	女20代	女30代	女40代	女50代	女60以
広報誌（市政だよりなど）	58	83	83	86	93	69	85	87	93	100
新聞・TV	46	43	38	50	64	29	21	31	22	75
ポスター	30	26	15	14	14	11	9.7	21	0	0
知人・町内会から	15	21	15	11	21	20	17	21	22	0
その他	6.1	6.9	9.1	3.6	0	11	2.8	0	3.7	0

図６　「中核市」情報入手手段の性・年代別比較

表２　　その他の少数意見

市職員・中核市に関係している仕事であるから	８人
インターネット	４人
イベントや勉強会	３人
前回のアンケート調査	２人
大学の授業	２人

3.3.2　「中核市」の理解度

中核市となり半年が経過しているが，久留米市民がどの程度理解しているかを「他人に説明出来るほどよく知っている」，「少しぐらいは知っている」，「名前ぐらいは知っているが，具体的にはわからない」の３段階に分けたものを図 7 に示した。図 8 はさらに性別で分けて示した。名前ぐらいしか知らないと答えた人は約半数見られ、特に 20 代や 30 代の若い女性では約 6 割に見られた。「中核市」という言葉は浸透したもののその内容に関しては十分理解されていないのが現状である。

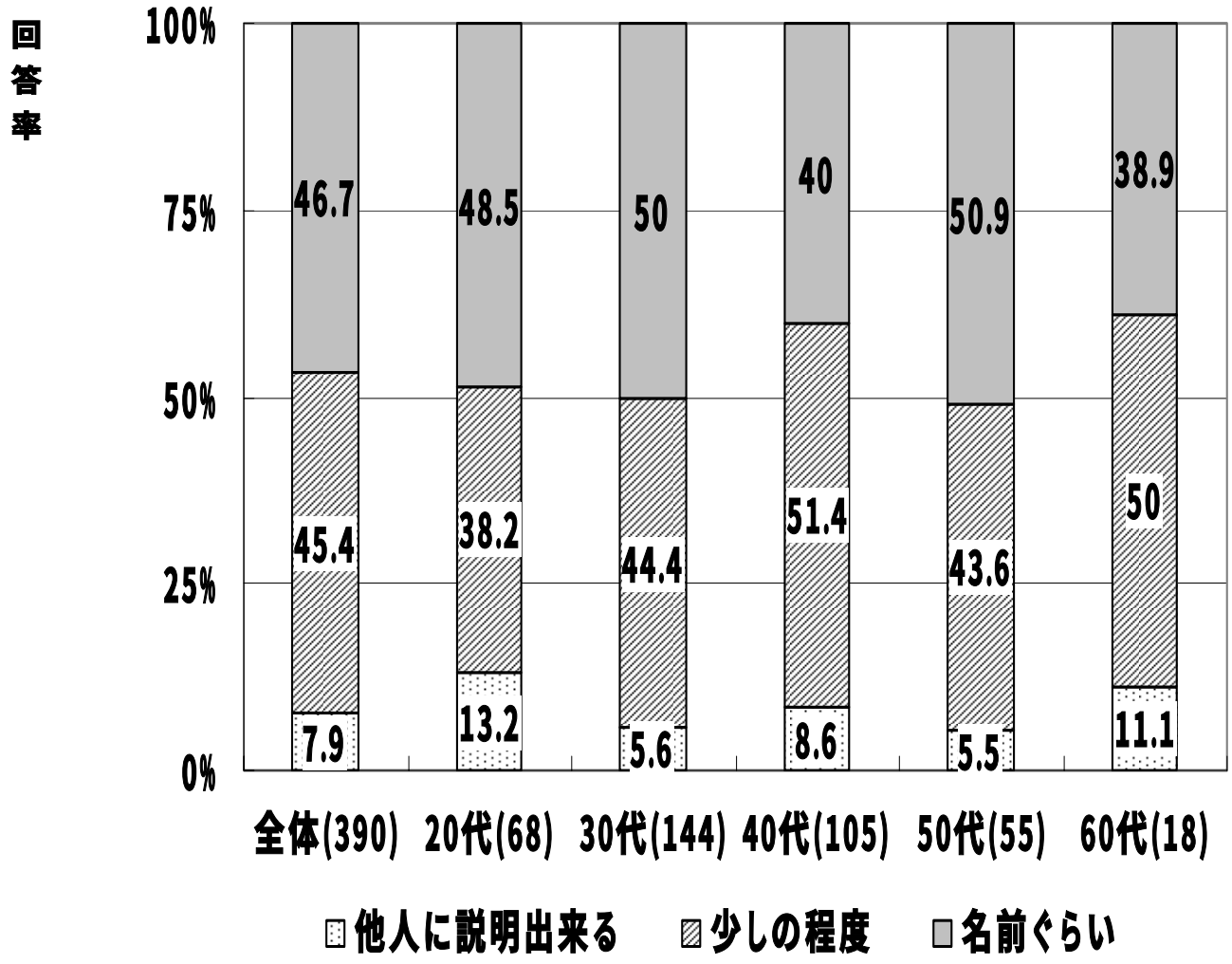


図 7　「中核市」の理解度

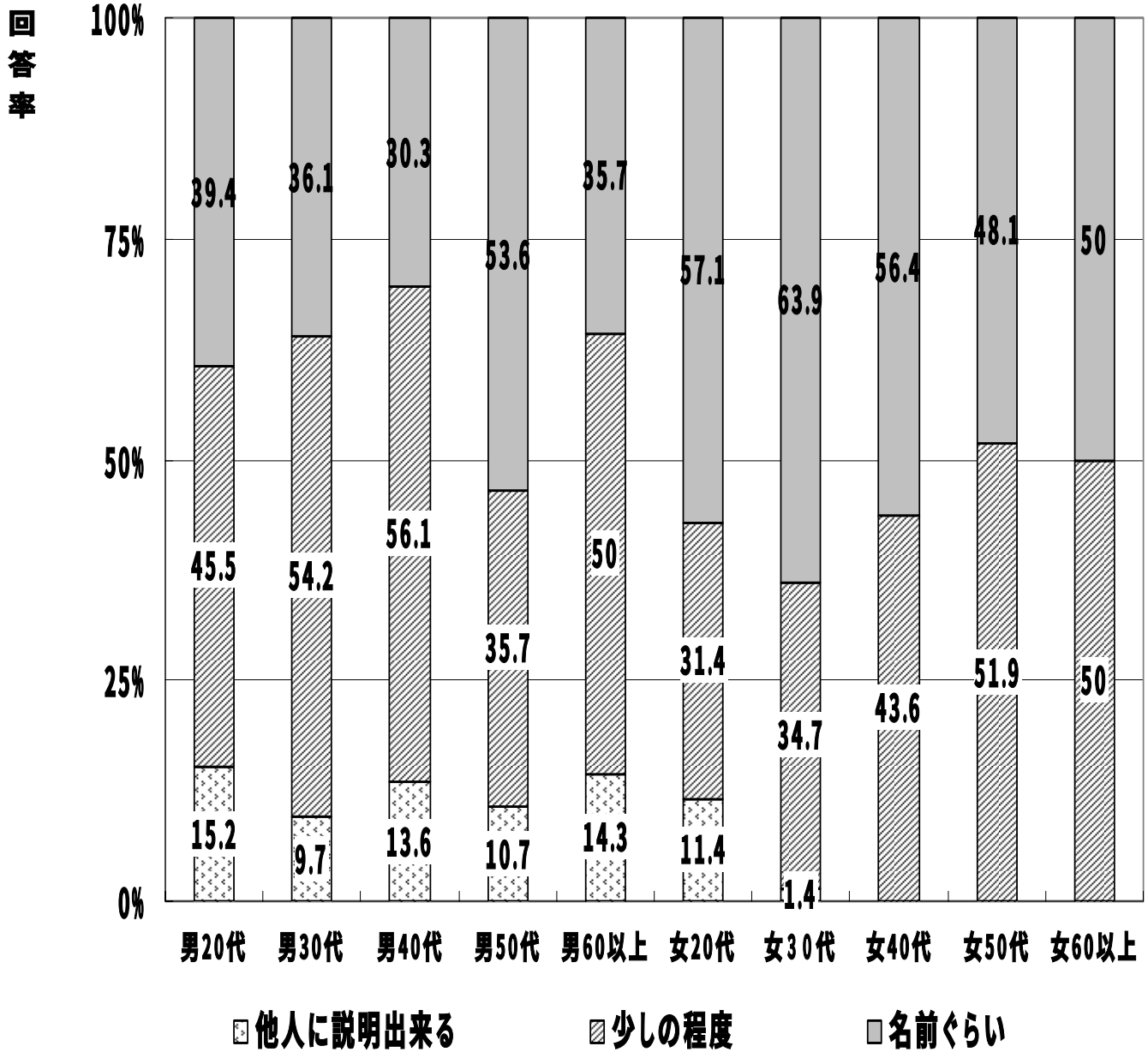


図８　性・年代別による中核市の理解度

3.3.3　「中核市」への期待

「中核市」への期待について，図 9 に年代別の割合，図 10 はさらに性別で分けた割合，表３にはその他の少数意見を示した。前回のアンケートと同様に，男女ともどの年代も“市の活性化”を望む意見が多かった。次に多いのは，保健関連が含まれるきめ細かな行政サービスであり，60 代以上の男性に関しては最も多い意見であった。商店街のシャター通りや大型店舗の閉店，郊外の大型店舗への人の流出など久留米市の町の衰退を危惧する声が聞かれる。また，中核市への期待の小数意見からも久留米市の町の活性化を期待する意見があった。平成 23 年春には九州新幹線が開通する今こそ，町の活性化問題を市民一人一人が真剣に取り組み，行政と市民が一体となって町おこしが出来ればと考える。

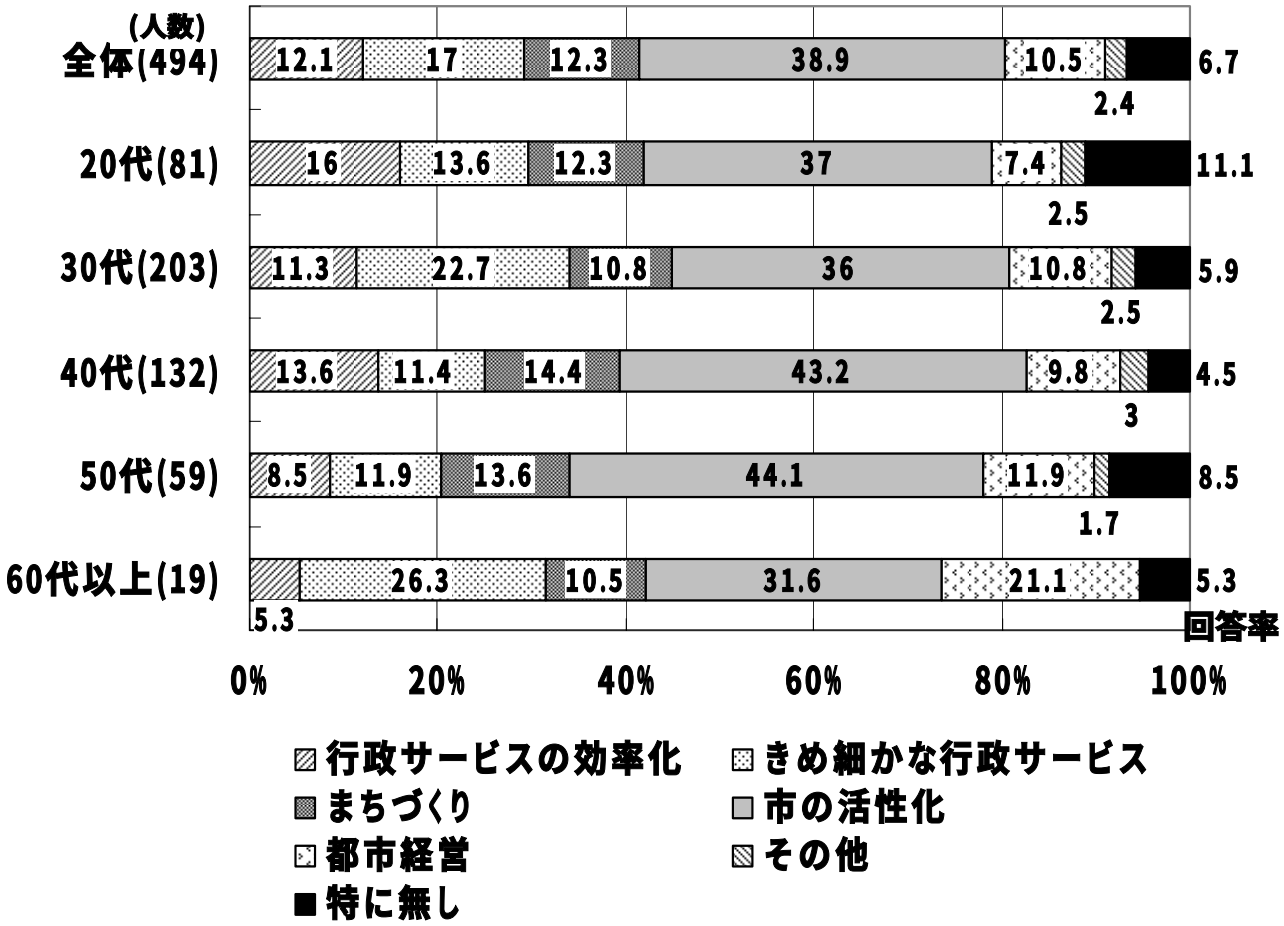


図 9　年代別「中核市」への期待（単一回答）

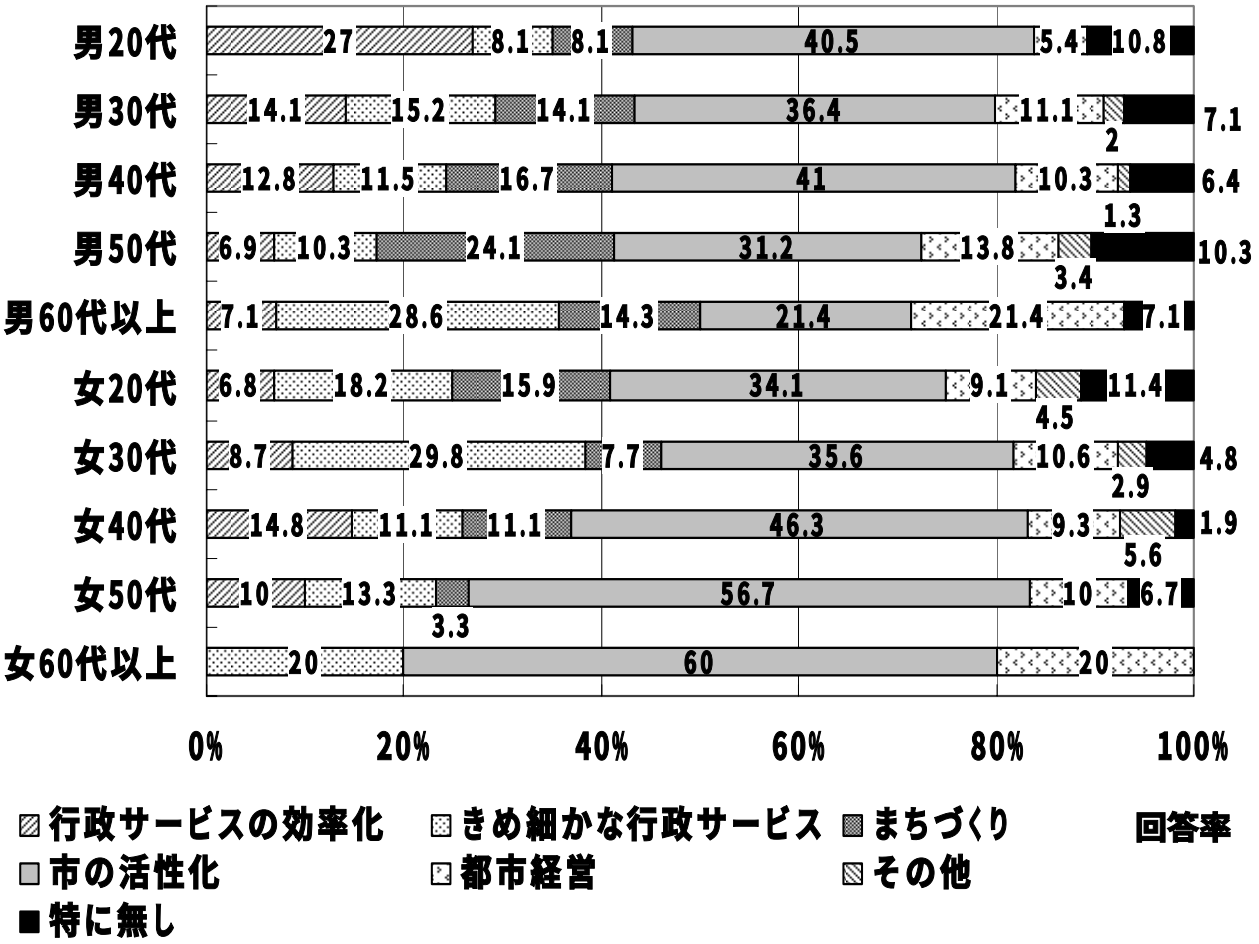


図 10　性別・年代別「中核市」への期待

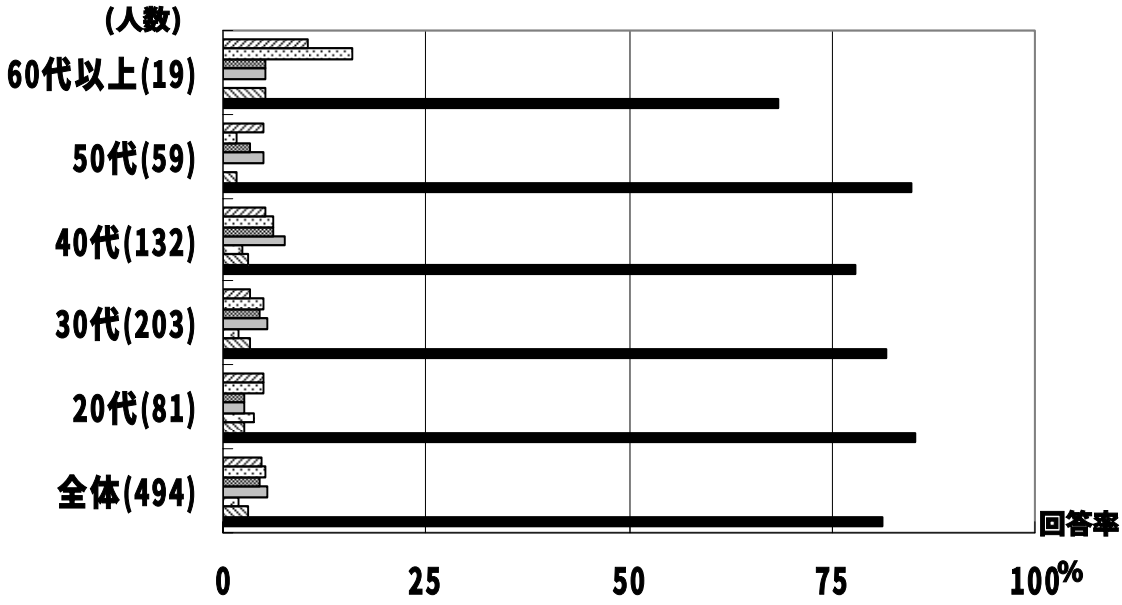
表 3　「中核市」への期待の少数意見

知名度のアップ
安全・平和な町づくり
子供や子育てに優しい都市
期待できる制度であるかどうか疑問
県庁まで行かなくてもよくなる
低所得者への給付金や子供への補助
六ツ門（井筒屋と旧ダイエーの間の大通り）のタクシー乗り場の撤去と違法駐車の取り締まり強化
西鉄久留米駅の活性化
税金が安くなる
住みやすい街・マナーの向上
医療制度・福祉の充実

3.3.4　実際に「中核市」となり実感すること

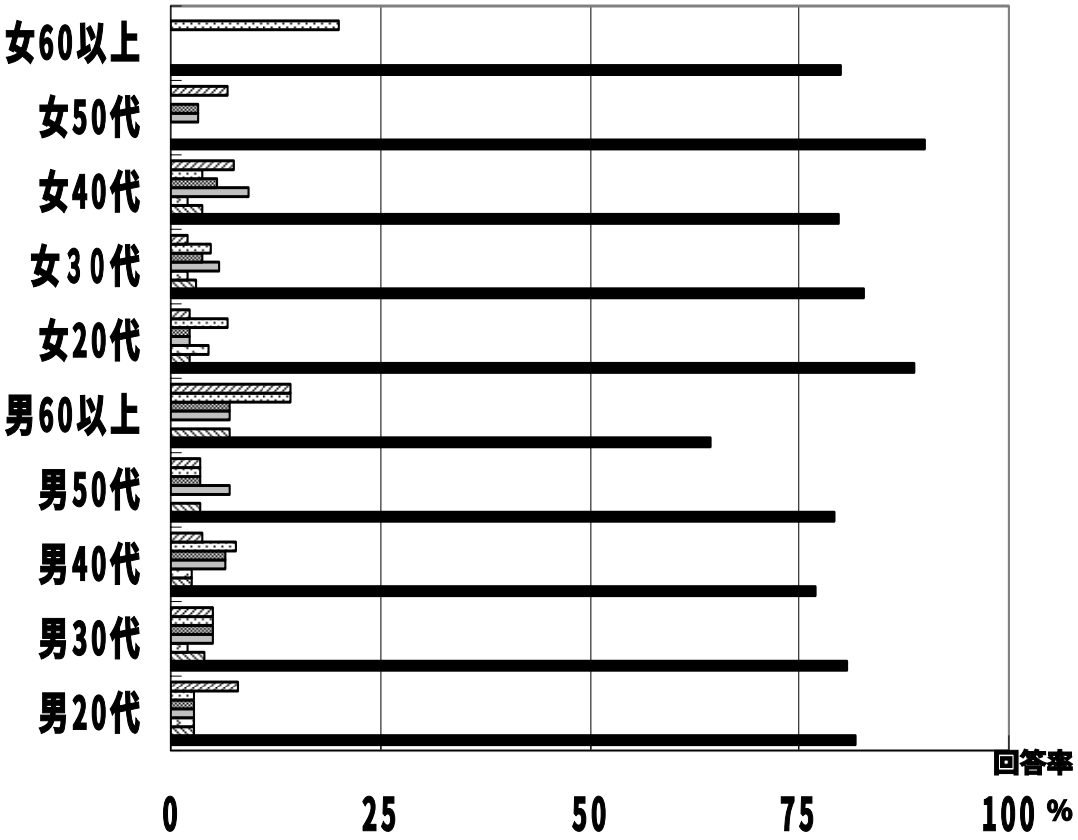
図 11 は中核市となり実感した事柄を，図 12 はさらに性・年代別に分けて示した。表 4 にはその他の記述回答を示した。

まだ，中核市となって半年しか経過していないためか，全体の 8 割は“特に何もない”と答える意見が多かった。中核市となっても住民の生活には直接的な影響を及ぼしていないとも言える結果であるが，県からの事務権限の移譲を久留米市は 2000 余りを受けており，独自の政策を行えるようになった今こそ，久留米市住民に良い結果をもたらすことが期待される。経過を見たい質問内容であり，今後プラスの意見が増えるように行政や市民一人一人が考えることである。



(人数)	全体(494)	20代(81)	30代(203)	40代(132)	50代(59)	60代以上(19)
行政サービスの効率化	4.7	4.9	3.4	5.3	5.1	10.5
きめ細かな行政サービス	5.3	4.9	4.9	6.1	1.7	15.8
まちづくり	4.5	2.5	4.4	6.1	3.4	5.3
市の活性化	5.5	2.5	5.4	7.6	5.1	5.3
都市経営	2	3.7	2	2.3	0	0
その他	3	2.5	3.4	3	1.7	5.3
特になし	81.2	85.2	81.8	78	84.7	68.4

図 11　「中核市」となり実感した事柄（複数回答）



	男20代	男30代	男40代	男50代	男60以上	女20代	女30代	女40代	女50代	女60以上
行政サービスの効率化	8.1	5.1	3.8	3.4	14.3	2.3	1.9	7.4	6.7	0
きめ細かな行政サービス	2.7	5.1	7.7	3.4	14.3	6.8	4.8	3.7	0	20
まちづくり	2.7	5.1	6.4	3.4	7.1	2.3	3.8	5.6	3.3	0
市の活性化	2.7	5.1	6.4	6.9	7.1	2.3	5.8	9.3	3.3	0
都市経営	2.7	2	2.6	0	0	4.5	1.9	1.9	0	0
その他	2.7	4	2.6	3.4	7.1	2.3	2.9	3.7	0	0
特になし	81.8	80.8	76.9	79.3	64.3	88.6	82.7	79.6	90	80

図 12　性別・年代別の「中核市」となり実感した事柄

表４　「中核市」となり変化したと実感する事（記述回答）（ｎ=13）

身近な行政サービスが悪くなった
中途半端な人口増加
動物管理センターが出来た
業務時間の延長
保健所ができたこと
市が発行するものが変わった、いいとも悪いとも言えない
マンションなどの建設が多くなった
市役所の駐車場が一杯で迷惑
子育てし難くなった
福祉関係において杓子定規になるあまり、かえって臨機応変な対応が出来なくなり、業務の停滞を招いている
保険料の値下げ
税金が上がった
中核市ばかりのアピール

3.3.5　保健所の認知度

久留米市は中核市となってから，それまでは合川町にあった県の保健所から久留米市役所横の商工会館の 4 階に場所を移し，久留米市保健所を新設した。
新設保健所の認知を示したものを図 13，さらに性別で分けたものを図 14，保健の場所を問うたものを図 15，さらに性別で分けたものを図 16 に示した。

「中核市」となり久留米市が保健所を新設したことは，約 4 割弱の人しか認識がなく，保健所新設の認知度が低いことが伺われた。特に 20 代・30 代の若い世代は約 3 割の認知度であり，今後母子保健や乳幼児相談など関わる機会が多くなるため認知度を上げることは望まれる。

保健所が新設されたことを知っていた人の中でも約 3 割の人は場所がどこにあるのかわからないと答えていた。保健所の十分な PR の不足がうかがわれる。

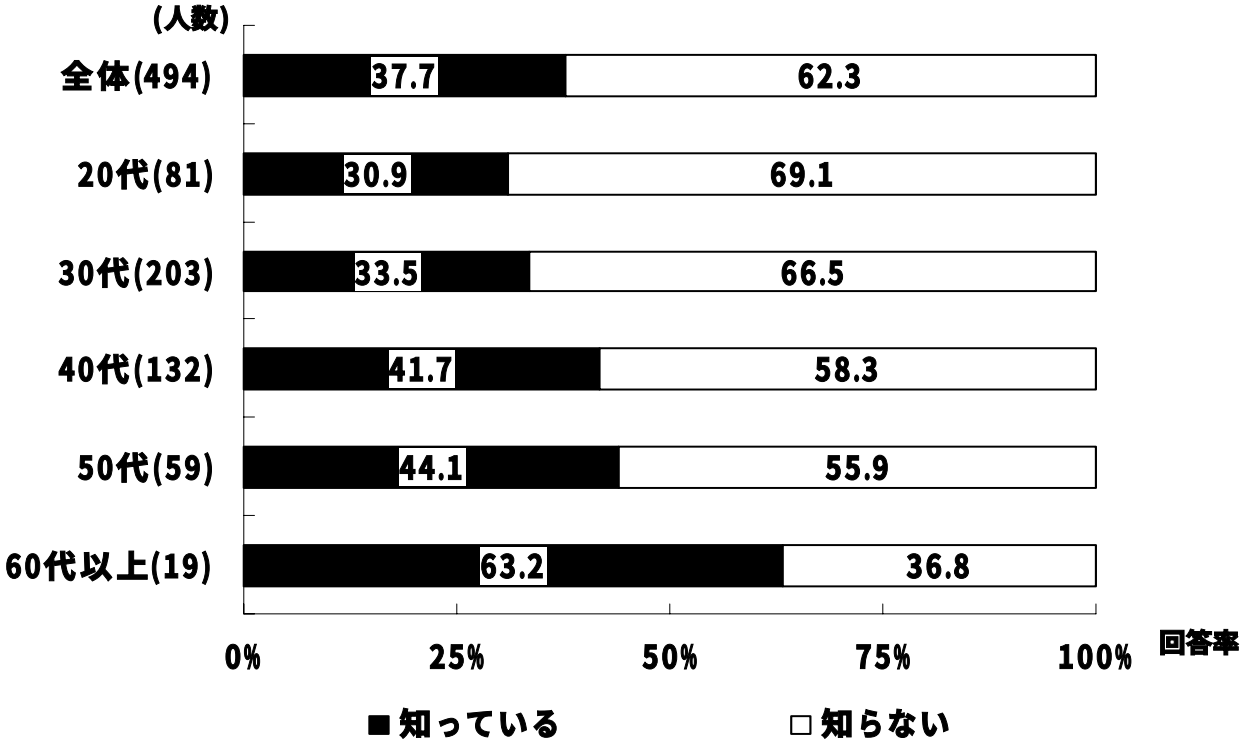


図 13　新設保健所の認知割合

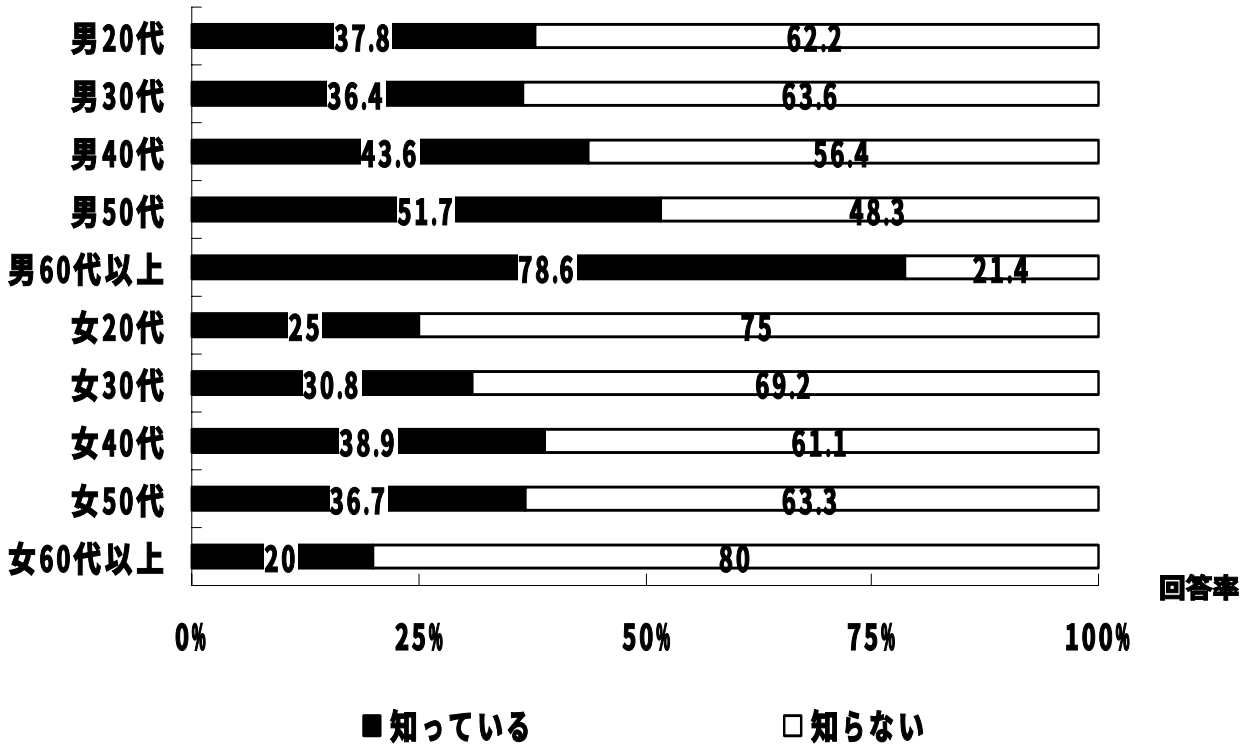


図 14　性別･年代別による新設保健所の認知度

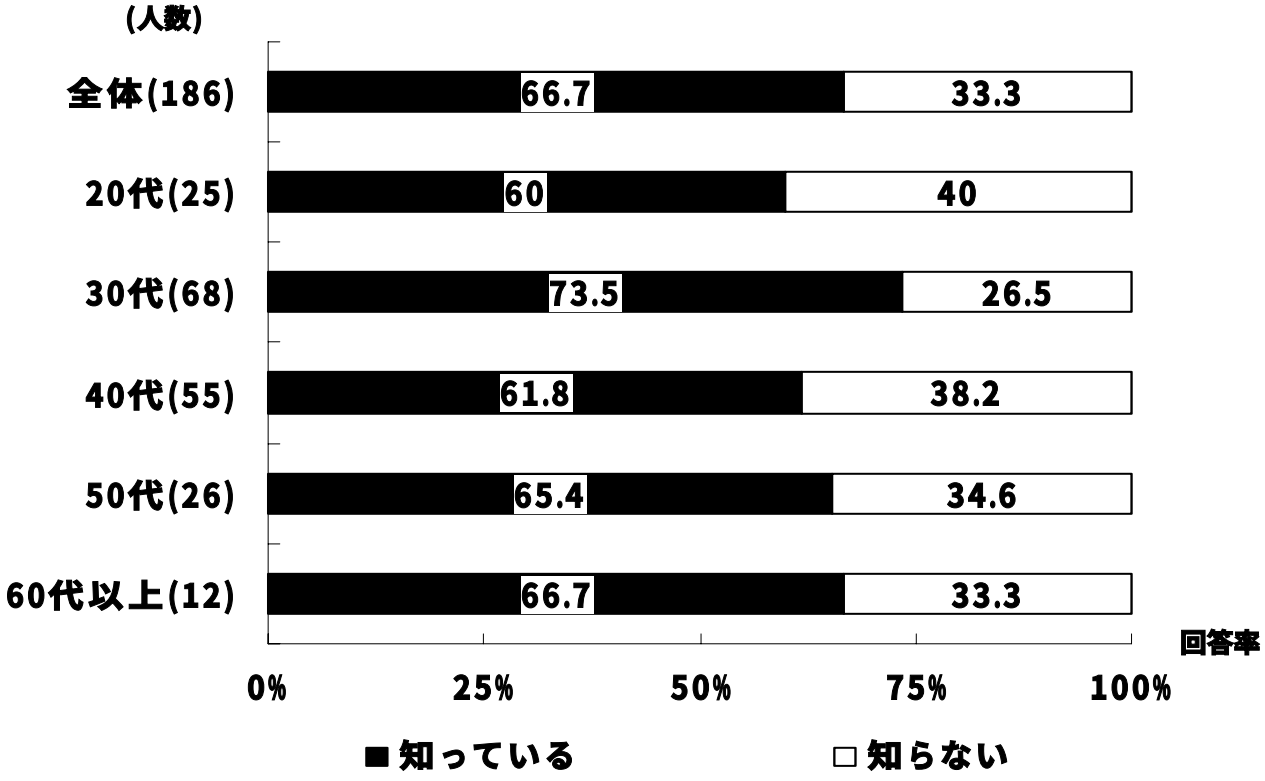


図 15　新設保健所の場所に認知度

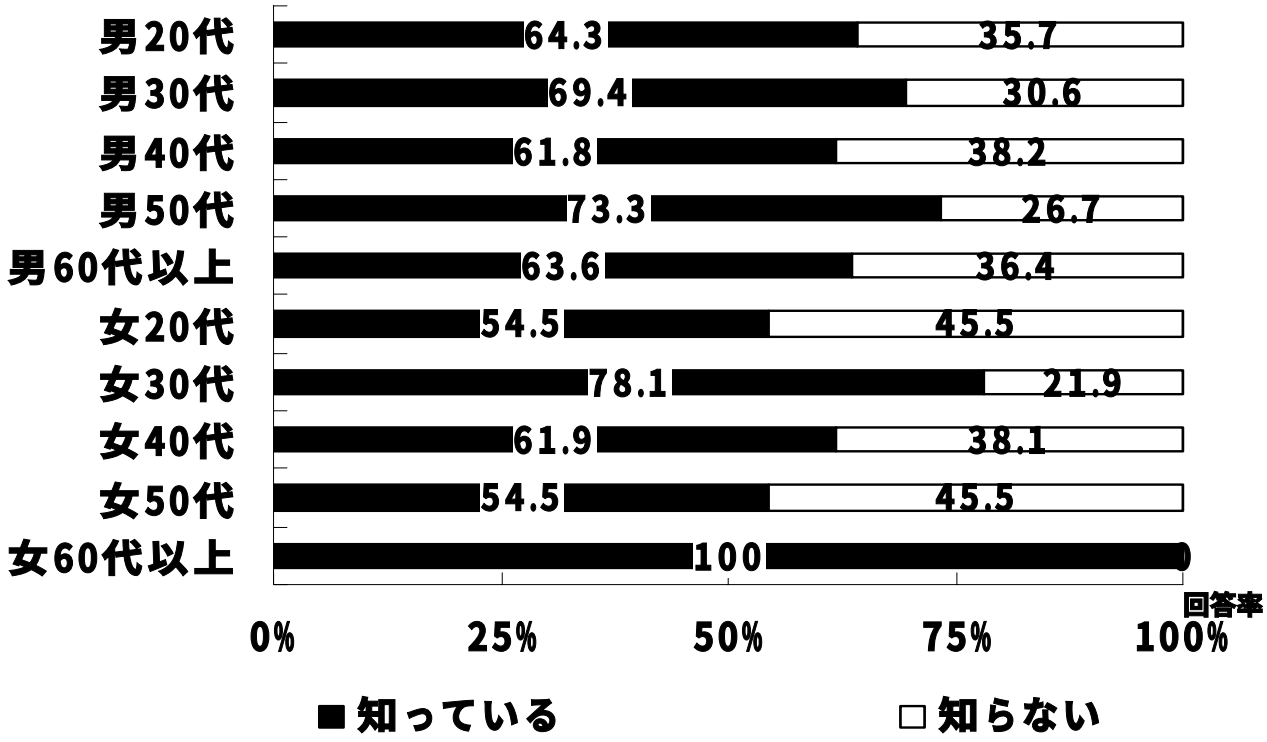


図 16　性別・年代別による新設保健所の場所の認知度

3.3.6　新設された「保健所」への期待と実際の利用内訳

新設された保健所の期待に関しての年代別割合を図 17 に，さらに性別による変化を図 18 に，実際に中核市となって利用した保健所業務を図 19 に，さらに性別による変化を図 21 に示した。

保健所への期待は約 9 割の人が何かしらの要望があり，最も期待する内容は前回のアンケート結果同様に健康づくりであり，次に食品衛生・食中毒予防であった。

年代別・性別では，健康づくりに最も期待をしているのは，男性では 3 割を超すのが 50 代からであり，女性では 30 代以上から４割を超えていた。前回同様の結果であり，健康づくりへの期待は男女間の年代で差が見られた。

乳幼児相談に関しては，育児年齢である 20 代・30 代で多く見られた。

中核市になり実際に保健所を利用したかどうかは，全体の約 8 割が特に利用をしなかった，との意見であった。利用した 2 割のうちで，最も多かったのは健康づくりに関することであり，男性では 60 代以上に続き 30 代・40 代に，女性では 30 代・40 代に最も多く見られた。利用したうちで次に多かったのは乳幼児相談であり，女性では 20 代・30 代，男性では 30 代・40 代で多く見られた。

この質問結果から，保健所への期待は大きいものの実際の利用は少なく,保健所と市民生活とは離れた関係であることが伺われた。直接的には保健所に訪問する機会は少ないであろうが，間接的にも日頃から保健所は市民の生活になくてはならない,“ 市民の健康を守っている ”，ということが市民に伝わるような活動を保健所職員は進めていくことが望まれる。その一つとして保健所職員が積極的に地域に出て市民と交流を持つような機会は必要であり,“ 校区担当制の保健師活動 ” の意義は大きいと思われる。

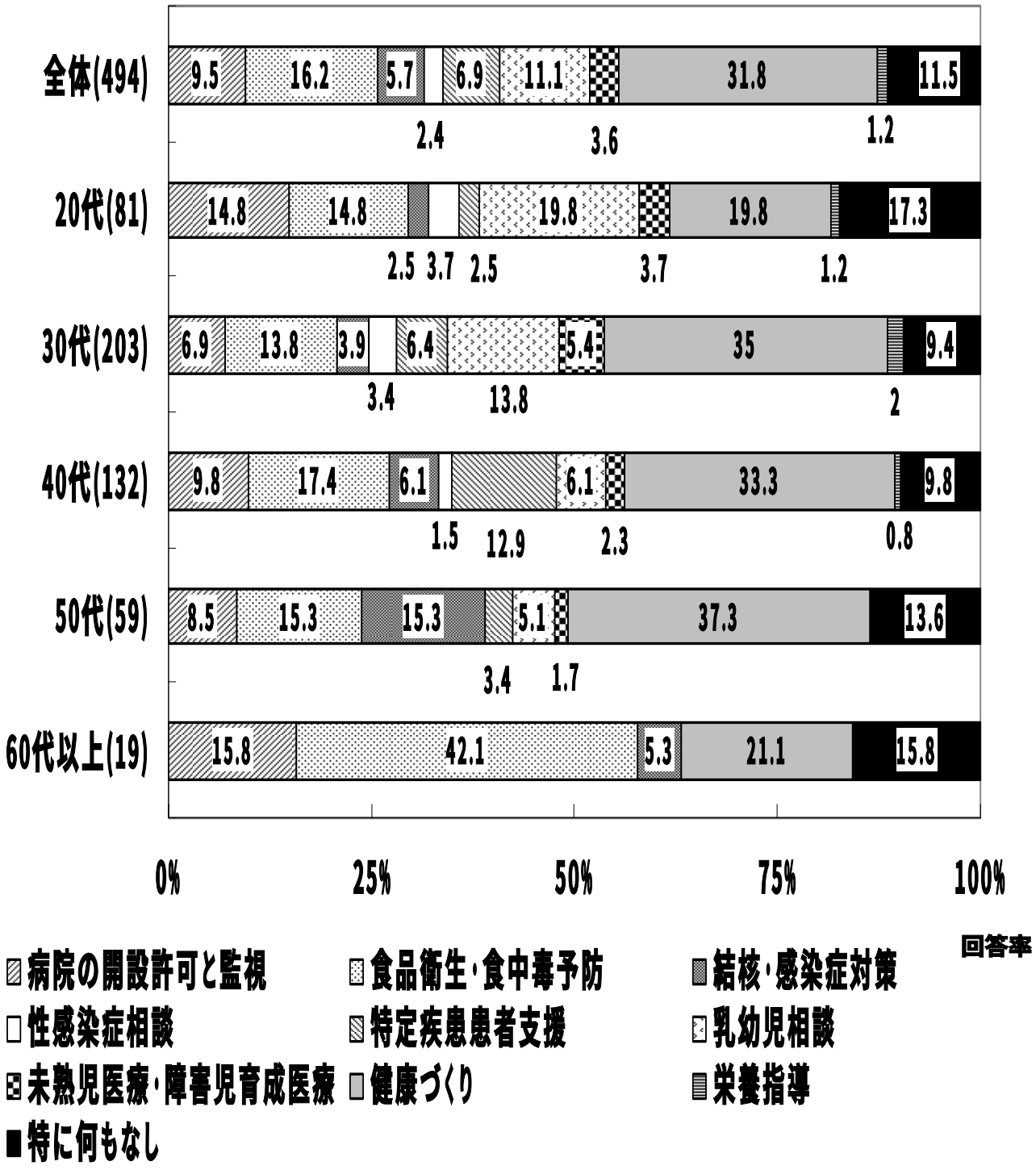


図 17　　新設保健所への期待(単一回答)

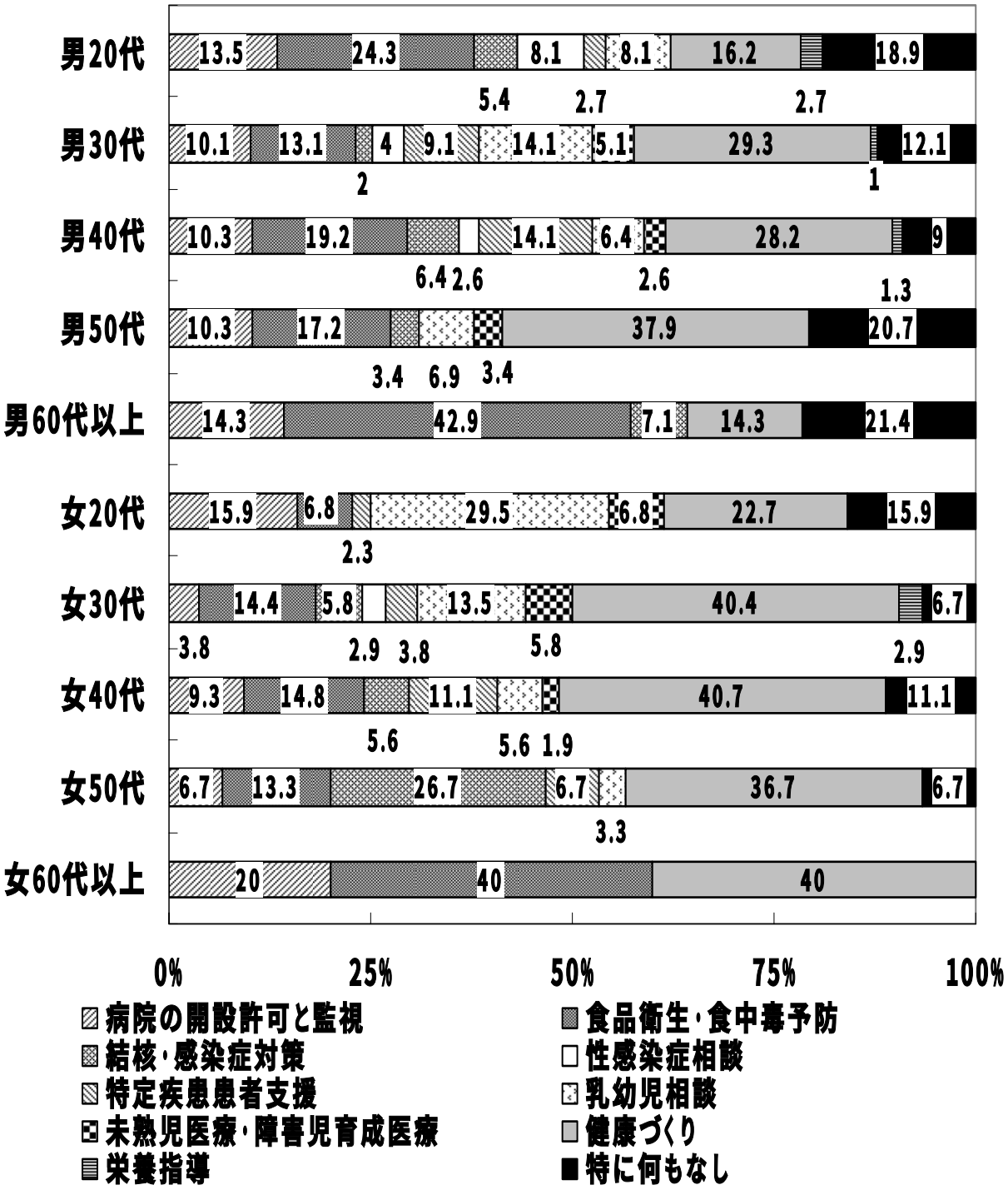
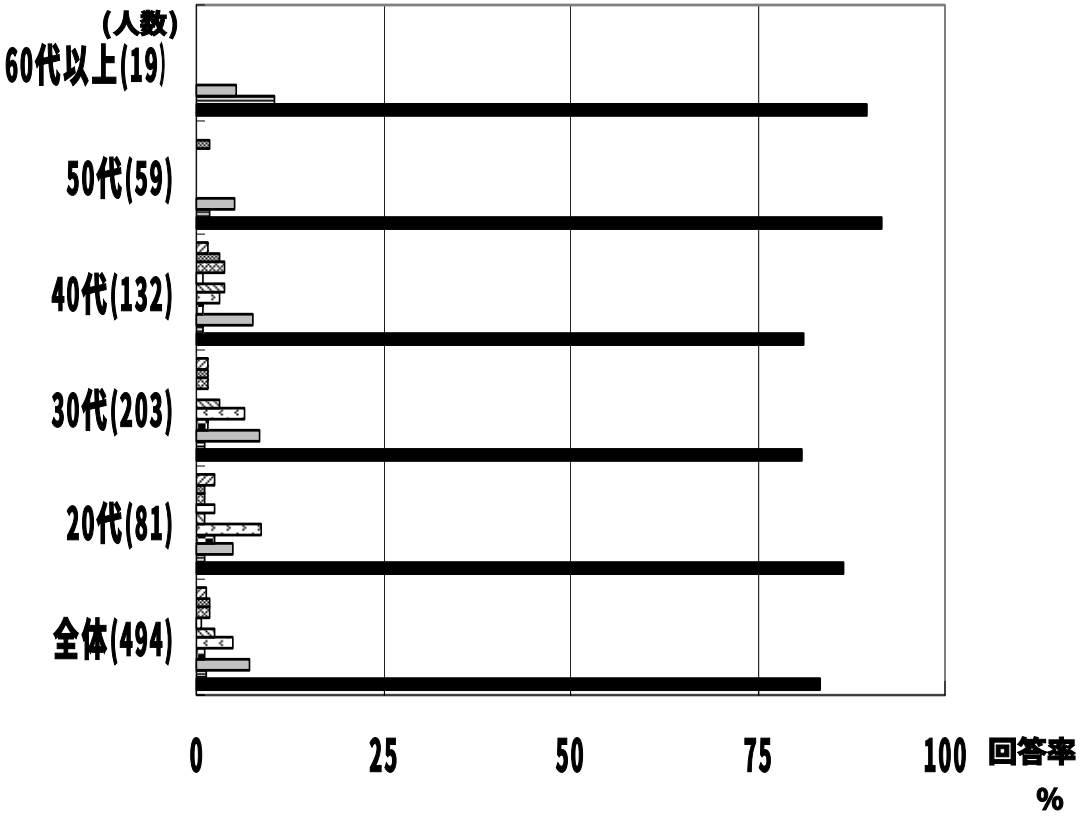
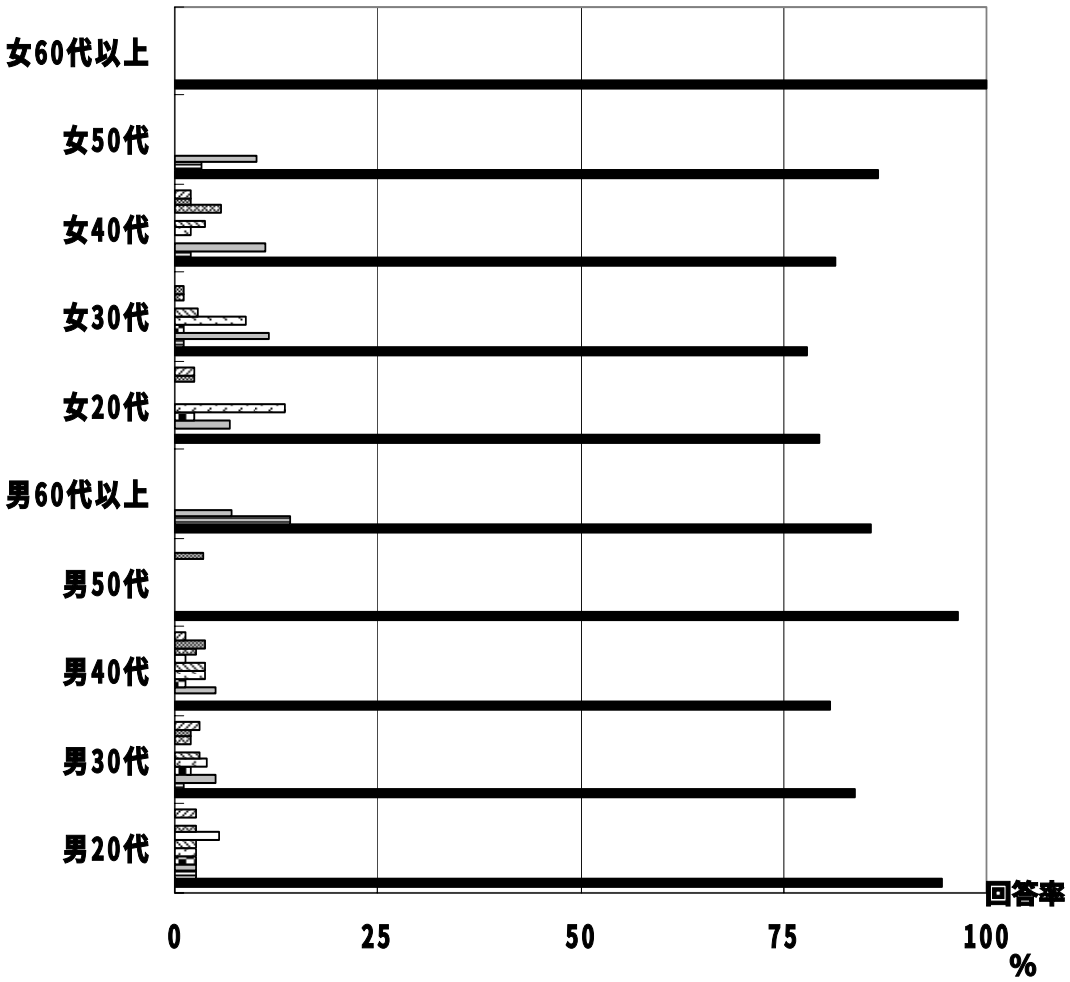


図 18　年代別・性別の新設保健所への期待



（人数）	全体(494)	20代(81)	30代(203)	40代(132)	50代(59)	60代以上(19)
病院の開設許可と監視	1.4	2.5	1.5	1.5	0	0
食品衛生･食中毒予防	1.8	1.2	1.5	3	1.7	0
結核･感染症対策	1.8	1.2	1.5	3.8	0	0
性感染症相談	0.6	2.5	0	0.8	0	0
特定疾患患者支援	2.4	1.2	3	3.8	0	0
乳幼児相談	4.9	8.6	6.4	3	0	0
未熟児医療･障害児育成医療	1.2	2.5	1.5	0.8	0	0
健康づくり	7.1	4.9	8.4	7.6	5.1	5.3
栄養指導	1.4	1.2	1	0.8	1.7	10.5
特に何もない	83.4	86.4	80.8	81.1	91.5	89.5

図 19　実際利用した保健所業務（複数回答）



	男20代	男30代	男40代	男50代	男60代以上	女20代	女30代	女40代	女50代	女60代以上
▨病院の開設許可と監視	2.7	3	1.3	0	0	2.3	0	1.9	0	0
▩食品衛生･食中毒予防	0	2	3.8	3.4	0	2.3	1	1.9	0	0
▩結核･感染症対策	2.7	2	2.6	0	0	0	1	5.6	0	0
□性感染症相談	5.4	0	1.3	0	0	0	0	0	0	0
▧特定疾患患者支援	2.7	3	3.8	0	0	0	2.9	3.7	0	0
▨乳幼児相談	2.7	4	3.8	0	0	13.6	8.7	1.9	0	0
▩未熟児医療･障害児育成医療	2.7	2	1.3	0	0	2.3	1	0	0	0
▩健康づくり	2.7	5.1	5.1	0	7.1	6.8	11.5	11.1	10	0
▤栄養指導	2.7	1	0	0	14.3	0	1	1.9	3.3	0
■特に何もない	94.6	83.8	80.8	96.6	85.7	79.5	77.9	81.5	86.7	100

図 20　年代別・性別の実際に保健所を利用した業務

3.3.7　　保健所の活性化

中核市になり保健所が活性化の有無を図 21 に，性・年代別には図 22 に示した。どの年代も 8 割～9 割が活性化には否定的な意見であった。また、活性化したと答えた１～２割の人に対してどのような時に活性化したと実感するかを図 23 に，性・年代別には図 24 に示した。多くは、広報誌などに健康情報が掲載させたことで活性化されたと実感していた。保健師の校区内訪問はまだまだ未開発であり、20 代と 60 代以上に見られた少数意見であった。

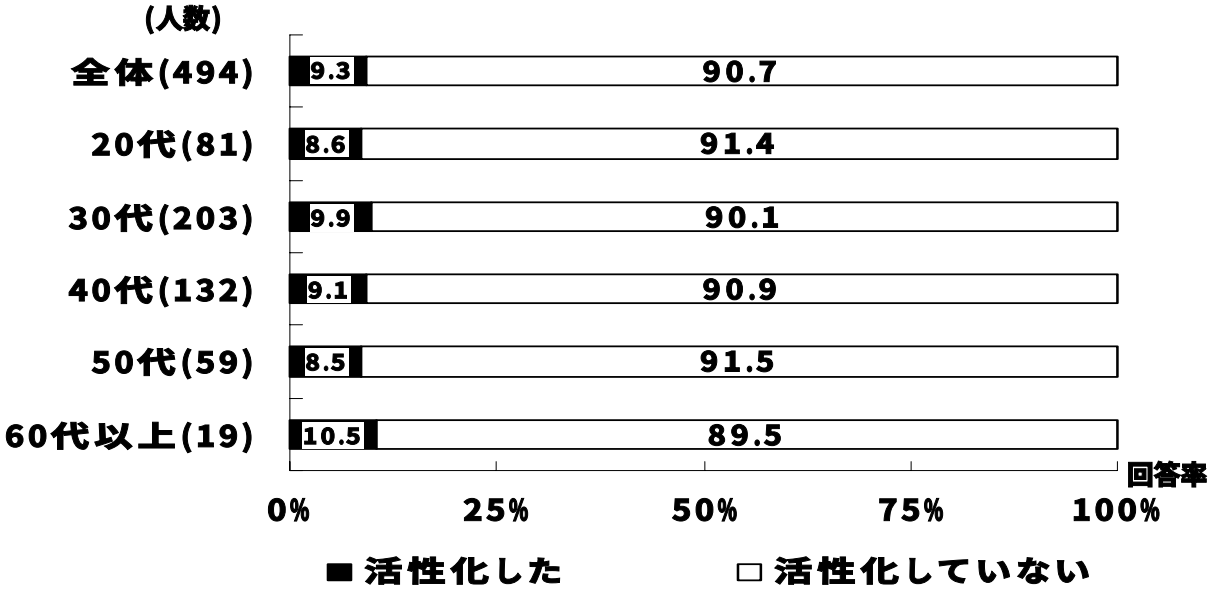


図 21　保健所の活性化の有無

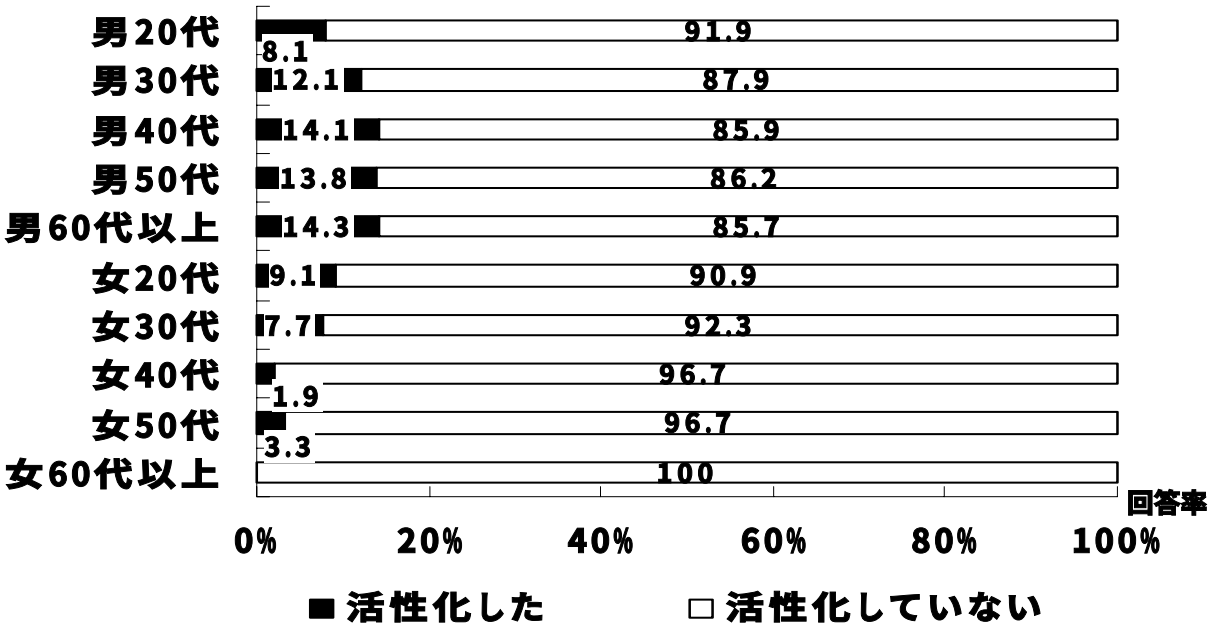
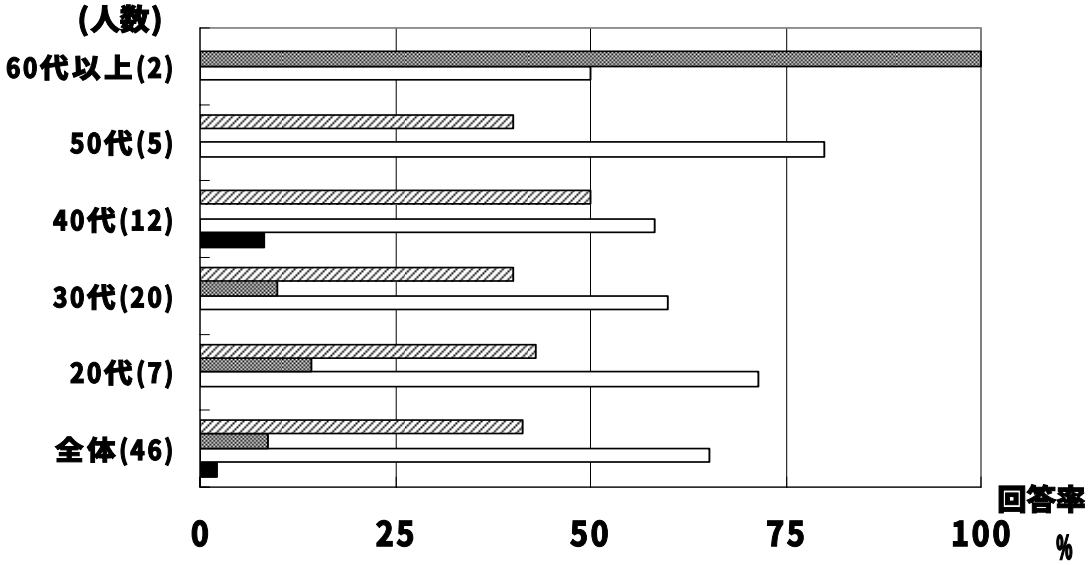
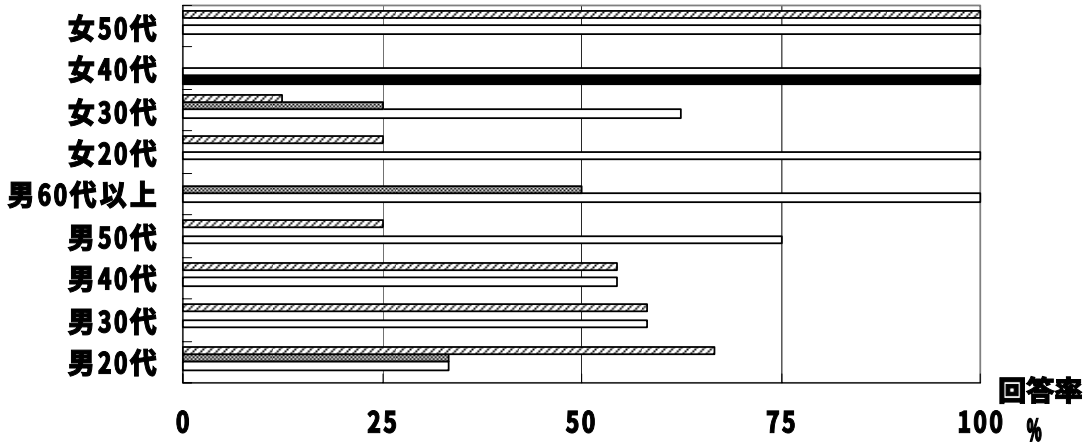


図 22　　性別・年代別の保健所活性化の有無



(人数)	全体(46)	20代(7)	30代(20)	40代(12)	50代(5)	60代以上(2)
▨保健所窓口の利用しやすさ	41.3	42.9	40	50	40	0
▩保健師の校区内訪問	8.7	14.3	10	0	0	100
□広報誌などで見かける	65.2	71.4	60	58.3	80	50
■その他	2.2	0	0	8.3	0	0

図 23　保健所が活性化したと実感できる事柄(複数回答)



	男20代	男30代	男40代	男50代	男60代以上	女20代	女30代	女40代	女50代
▨保健所窓口の利用しやすさ	66.7	58.3	54.5	25	0	25	12.5	0	100
▩保健師の校区内訪問	33.3	0	0	0	50	0	25	0	0
□広報誌などで見かける	33.3	58.3	54.5	75	100	100	62.5	100	100
■その他	0	0	0	0	0	0	0	100	0

図 24　性・年代別による保健所活性化を実感できる事柄

3.3.8　健康情報について

中核市となり市が主催する健康づくりに関する催しものの案内・広報をみかけたかどうかの割合を図 25 に，性別・年代別には図 26 に示した。市が主催する健康づくりへの参加の有無に関しては図 27 に，さらに性別・年代別には図 28 に示した。今後市が主催する健康づくりの催しものに参加するかどうかは図 29 に，さらに性別・年代別には図 29 に示した。

健康づくりに関する情報に関しては、“見た”と答えたのは今回は 28%であったが、前回のアンケート結果は 36%と高い割合であった。中核市となり、健康情報に関する案内が減ったのか，前回とは全く同じ母集団ではないため比較は難しい。健康づくりの催しものに参加しているのは前回のアンケート結果同様に全体的の 1 割にも満たず，少ない割合であった。年代別では，男性では 60 代以上と 40 代に多く，女性では 60 代以上に多く見られた。男性の 40 代は，前回のアンケート結果では 1 割も満たない数であったが，今回は約 1 割に認められた。これは，今年 4 月から始まった新健診制度（特定健診・特定保健指導）の対策として健康づくり教室に参加するようになったか，と推測される。今後の健康づくり教室への参加の有無は，男女性とも 30 代から約 3 割もしくは 3 割以上の人に見られており，市民の健康志向が高いことが伺われた。

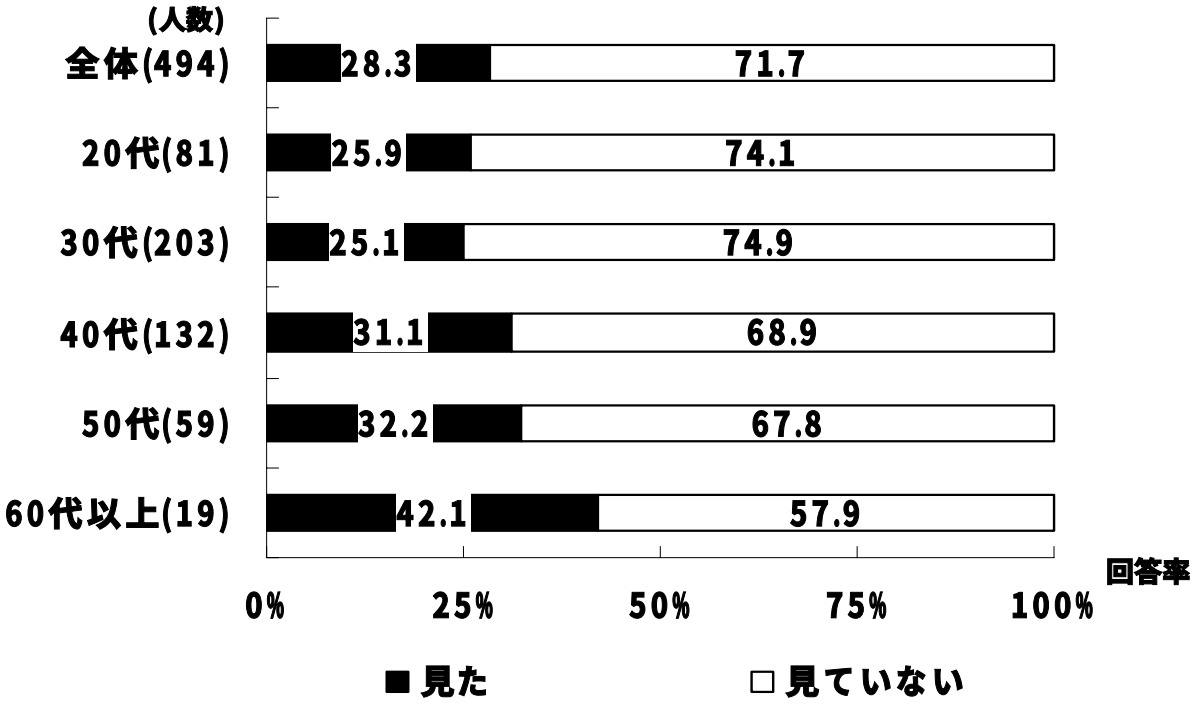


図 25　中核市となり健康づくりに関する情報の案内を見たかの割合

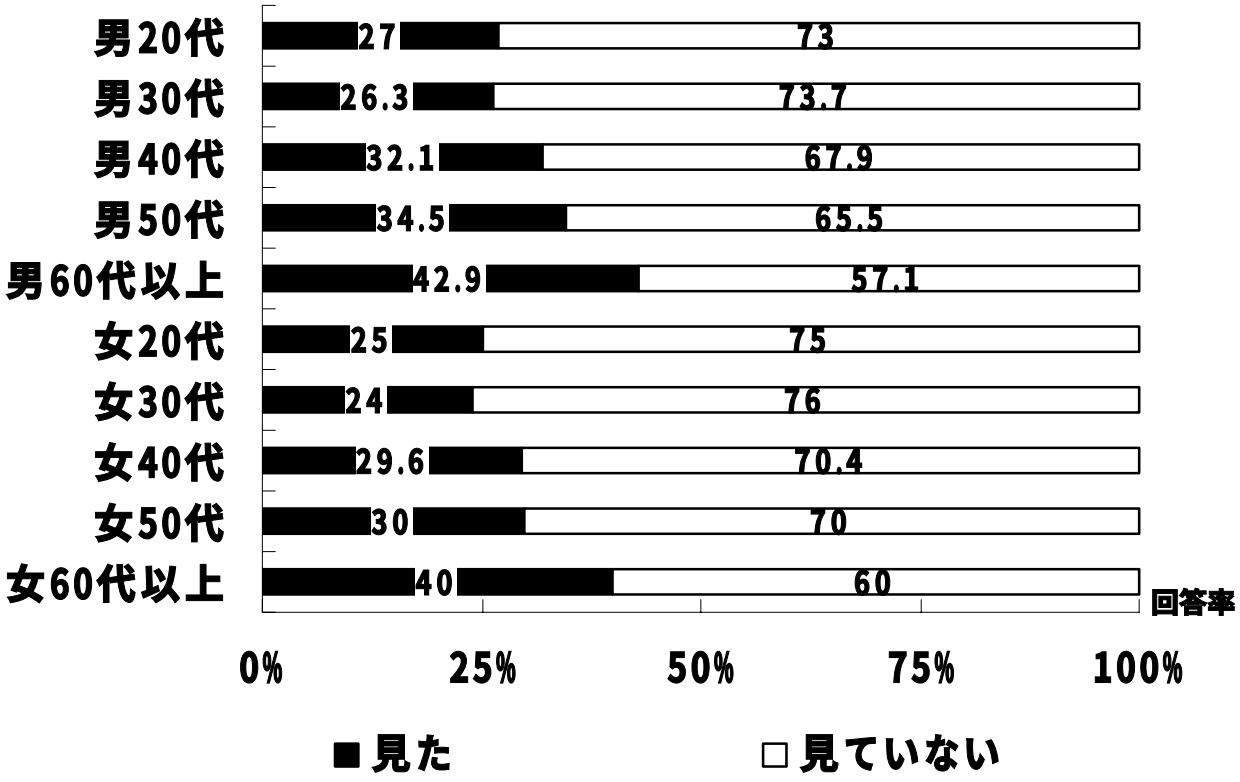


図 26　性・年代別による中核市となり健康づくりに関する情報の案内を見たかの割合

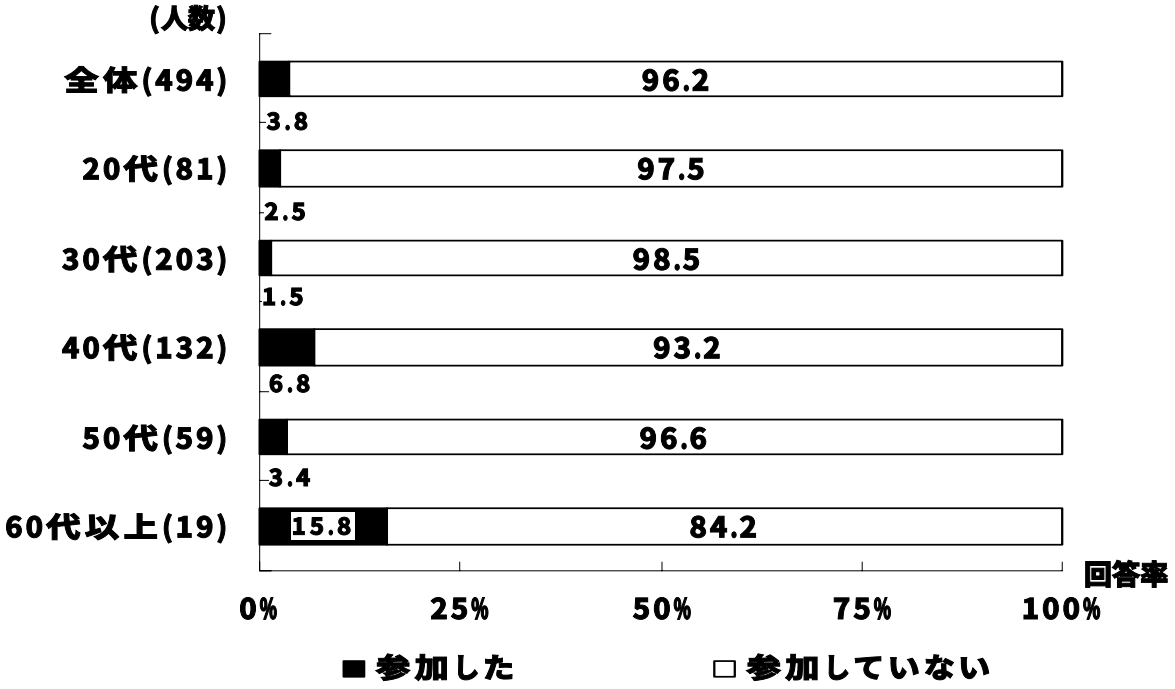


図 27　中核市になり実際に健康づくりに参加した有無

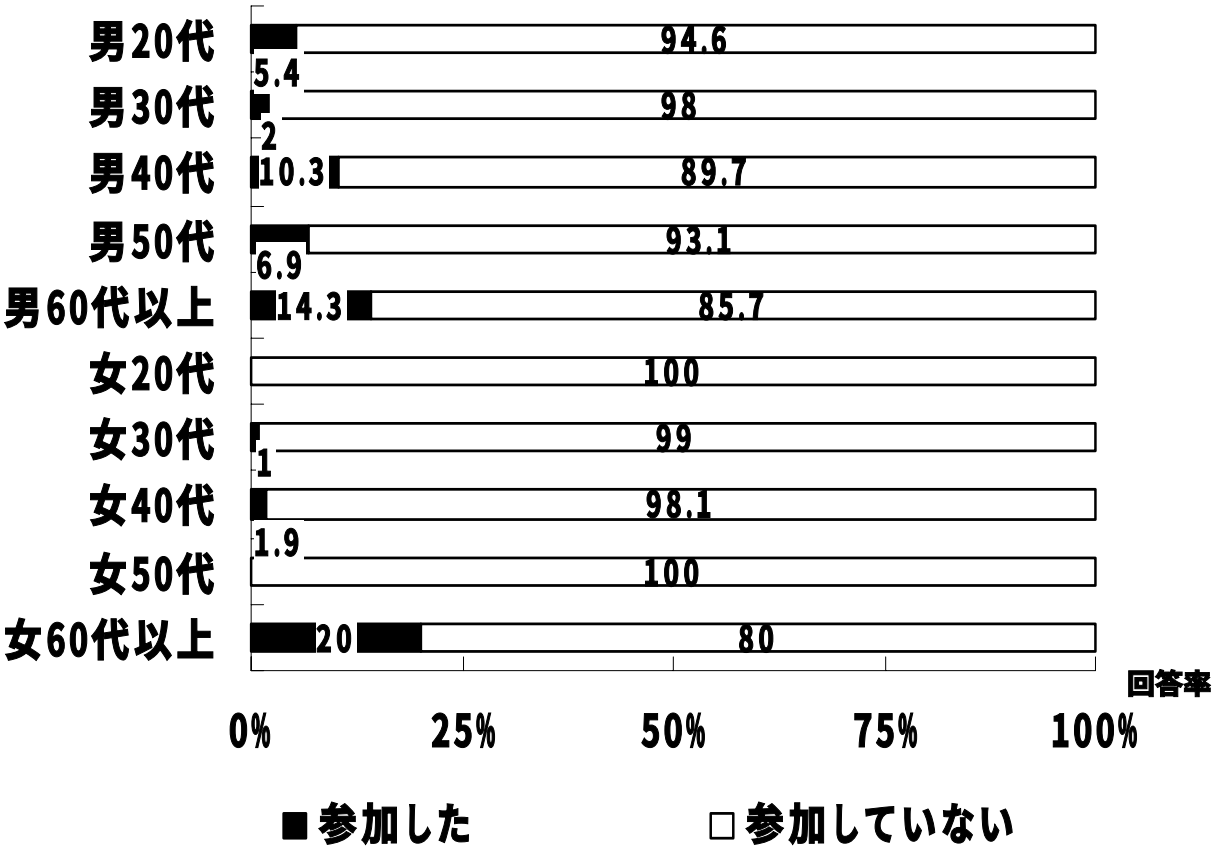


図 28　性・年代別による中核市になり実際に健康づくりに参加の有無

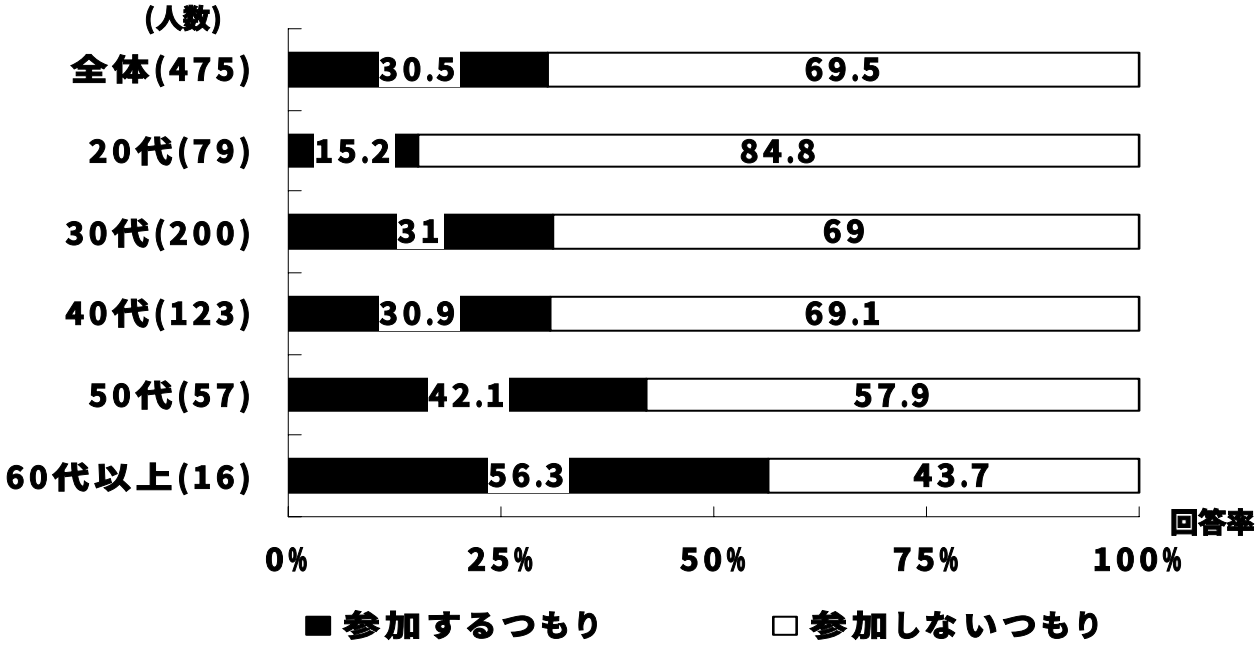


図 29　今後の健康づくりへの参加の有無

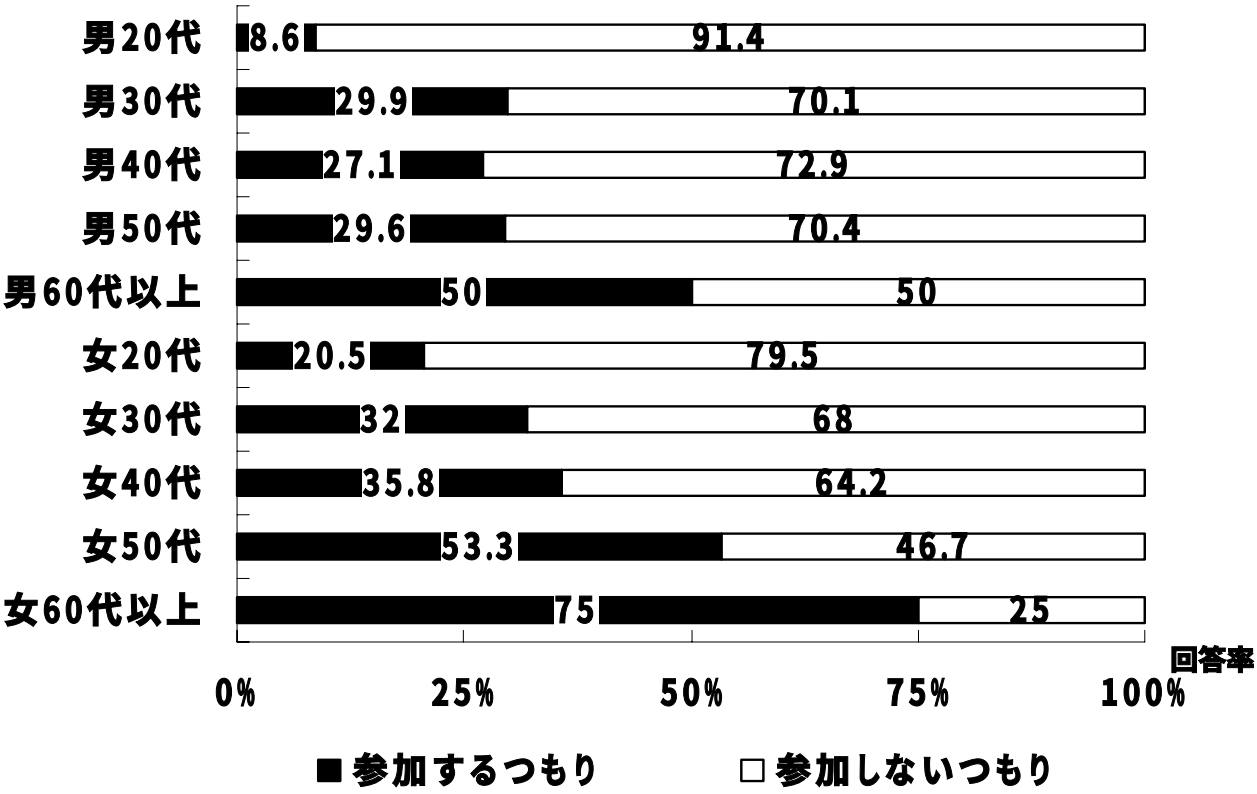


図 30　性・年代別による今後の健康づくりへの参加の有無

3.3.9　　健康づくり推進委員について

「健康は自分で守り，つくる」ことを実践するため校区によっては「健康づくり推進委員」が住民の皆さんから選ばれ，保健所が主催する講習会に参加してもらっている。健康づくり推進委員の認知度に関しては図 31 に，さらに性・年代には図 32 に示した。健康づくり推進委員に選ばれやすい 60 代以上では男女とも 2 割は認識していたが，全体的には約 9 割の人が認識不足であった。担当している保健所関係者は講習会での説明に忙しい割には，市民の認知度は低く，保健所の狙いである「健康自己管理」は住民には伝わらない可能性がある。

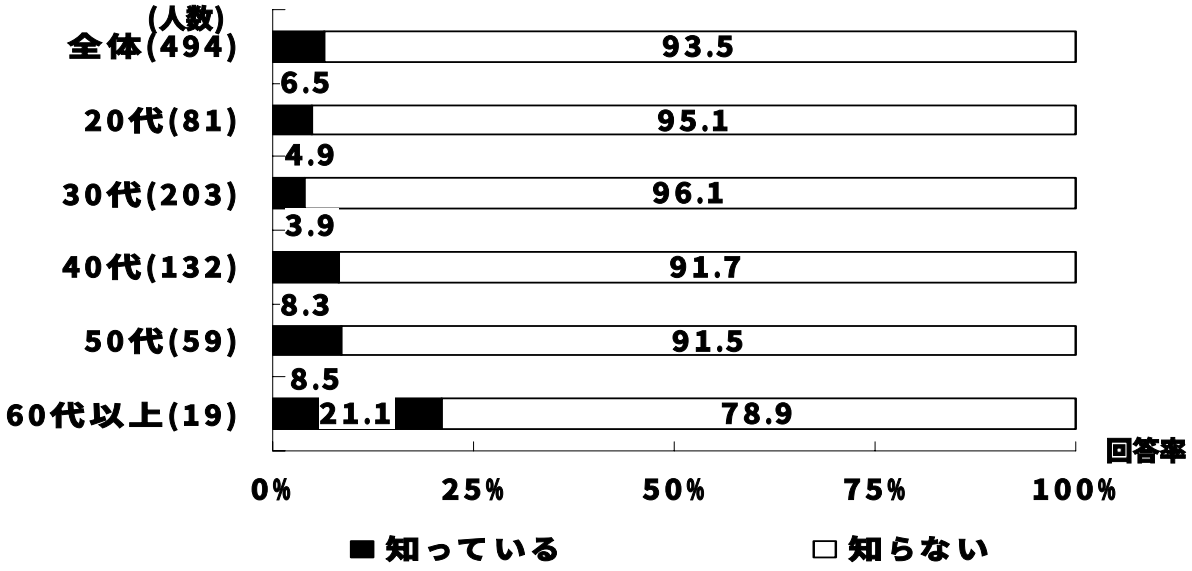


図 31　　健康づくり推進委員の認識の有無

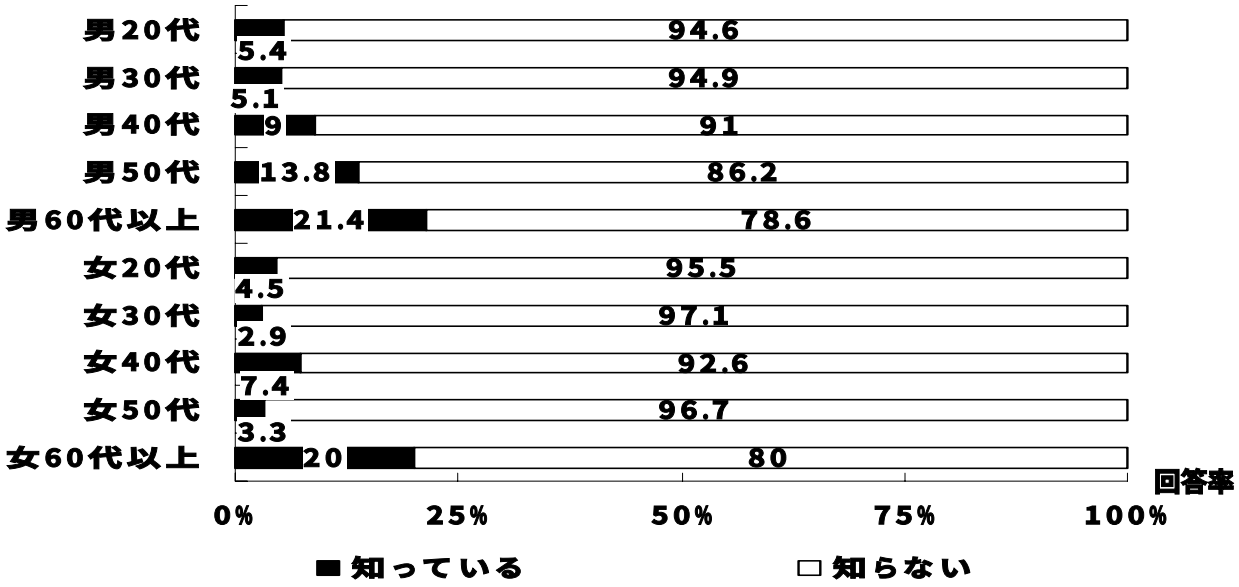


図 32　性・年代別による健康づくり推進委員の認識有無

3.3.10　これからの保健活動に関して

今までの保健師に対する満足の有無を図 33 に，さらに性・年代別に分けたものを図 34 に示した。また，保健師による保健活動の満足に関する理由を問うた結果を図 35，性・年代別には図 36 に示した。保健師との関わり合いを問うた結果を図 37，性・年代別には図 38 に示した。どのような形で保健師と関わったかを問うた結果を図 39 に，性・年代別には図 40 に示した。将来の校区担当制の保健活動に対する賛否の結果を図 41 に，性・年代別には図 42 に示した。保健師への希望を問うた結果を図 43 に，性・年代別には図 44 に示した。校区担当制の保健活動に反対意見の理由を問うた結果を図 45 に，性・年代別には図 46 に示した。

今までの保健活動への満足度は 60 代以上の男性が約 4 割と満足度が高く，また保健師により多いに助けられた経験が最も多かった年代が 60 代男性であったことから，保健師による保健活動の恩恵を受けているのは 60 代以上の男性であることがわかった。しかし，他の年代の男女に関しては約１割程度しか保健師への満足感が無く，ほとんどの世代において不満足感を抱いていることがわかった。また，“ 保健師と関わったことがない ” とする意見が全体の約 7 割を占めており，多いに助けられたとした意見は 60 代男性を除けば多くは 1 割も満たない程度であった。その他の記述回答は表 5 に示しているが，不満足に対する意見が多く見られた。

病院以外で地域の保健師と関わったことは，“ ない ” とした意見が最も多く全体の約 8 割強であった。約 2 割の人にどのような形で関わったかを問うたところ，保健師の家庭訪問が最も多く，特に男性では 30 代と 60 代以上，女性では 20 代～50 代まで最も多い意見であった。家庭訪問の内容までは問うていないため詳細は不明であるが，子供や病人に対する弱者への家庭訪問が伺われる。その他の意見を表 6 に示した。

校区担当制の保健活動に対しては，“ 賛成意見 ”と“ どちらでもない ”とが半々であることが分かった。女性の 50 代以降は “ 賛成意見 ” が 6 割であり “ どちらでもない・反対意見 ” をうわまわっていたが，積極的な導入に対しては今後検討の余地が十分あると考えられた。

保健師への希望としては，全体の５割以上を占めていたのは，健康相談と老人のサポートであった。約 4 割を占めていたのは，住民健診の案内と老人や子供や障害者などの弱者への家庭訪問，育児相談であった。健康相談が 50%以上であった年代は，男性では 20～40 代と 60 代以上であり，女性では 30 代であった。老人のサポートが多かったのは，男性では 50 代，女性では 40 代以上であり，親の介護問題が背景にあることが伺われた。その他の意見は少数であり，表 7 に示した。以上のことより市民の各年代に対応した保健師の対応と，より個

人個人のニーズに合わせた保健活動を行うことも必要になると思われる。

校区担当制の保健活動に反対する意見は約 1 割にも満たなかったがその理由を問うたところ，今の保健制度で十分とした意見が最も多く，次に情報が他人に渡って欲しくないとする意見や余計なおせっかいとする意見が多かった。その他の意見としては，これ以上税金の無駄はやめてほしい，と言う意見が最も多かった。

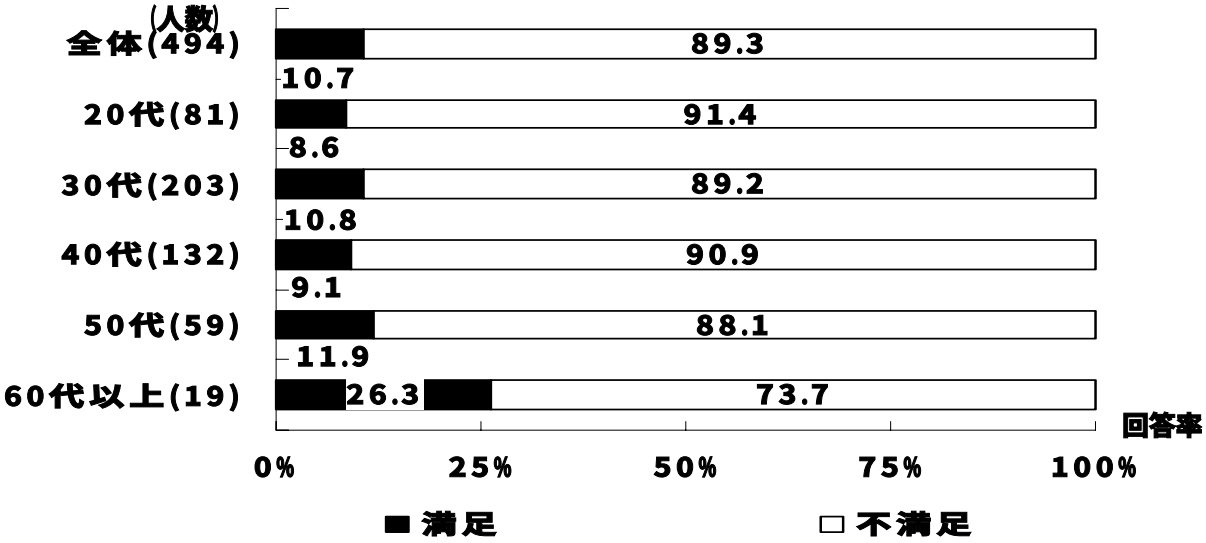


図 33　保健師への満足度

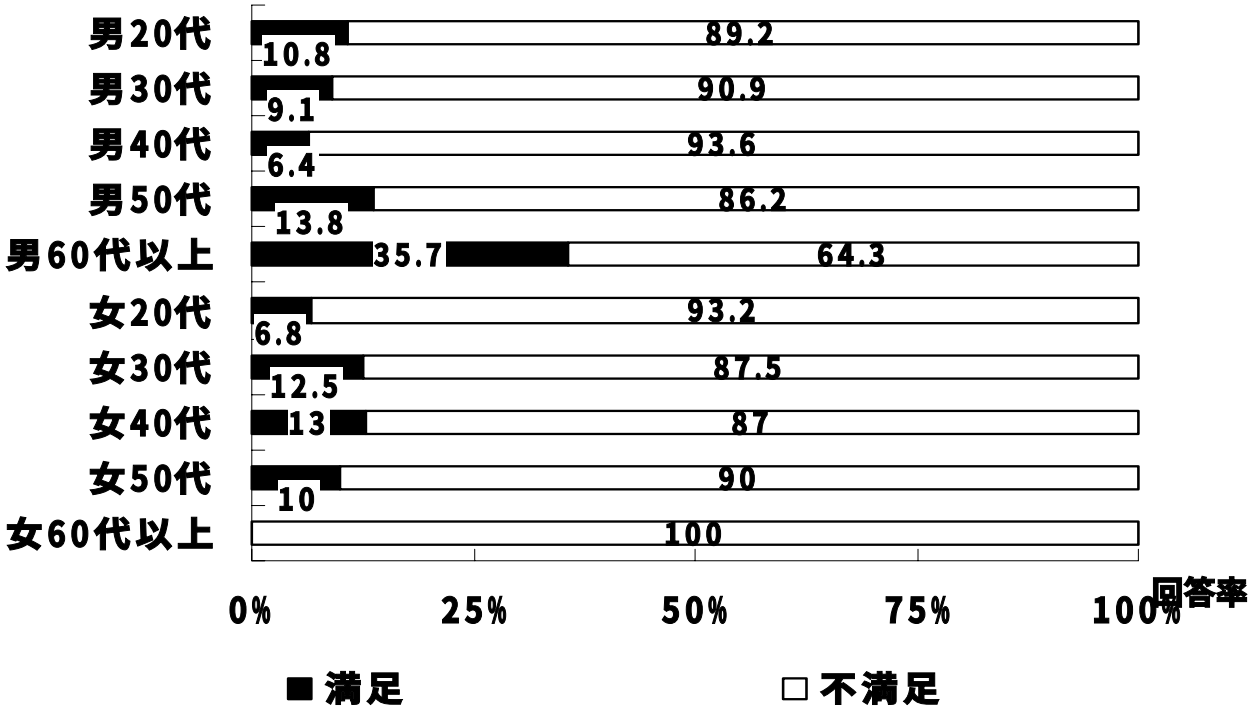


図 34　性・年代別の保健師への満足度

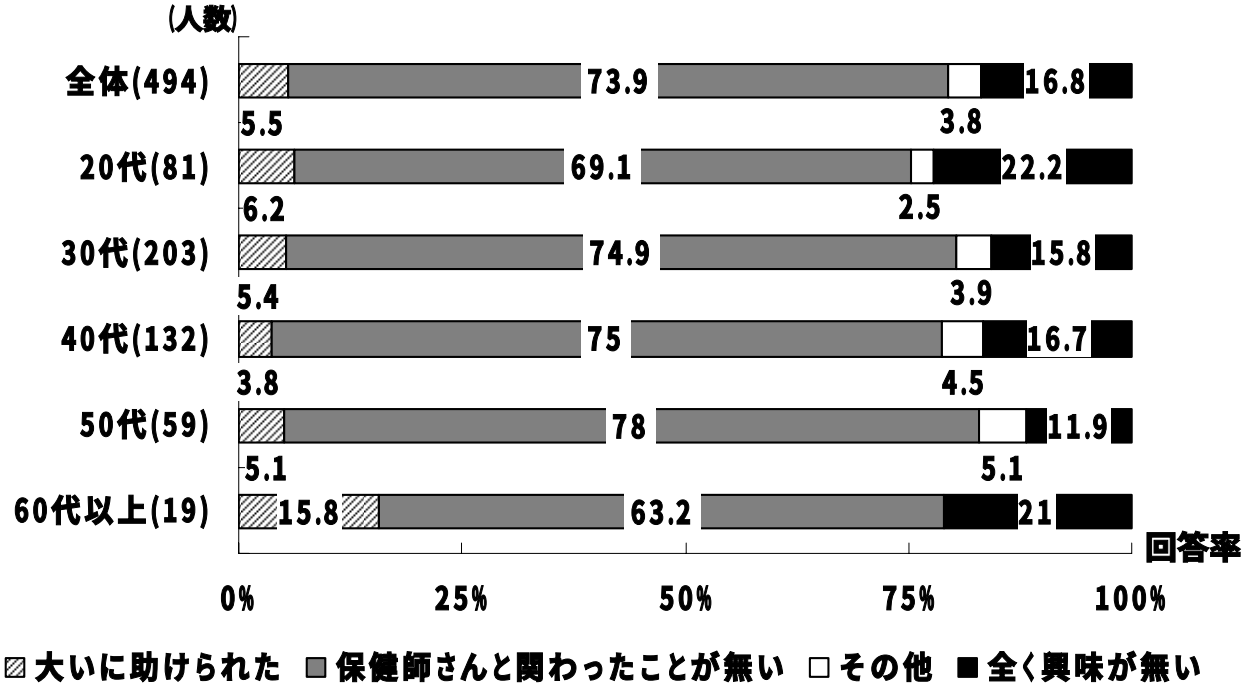


図 35　保健師の保健活動の満足度に対する理由

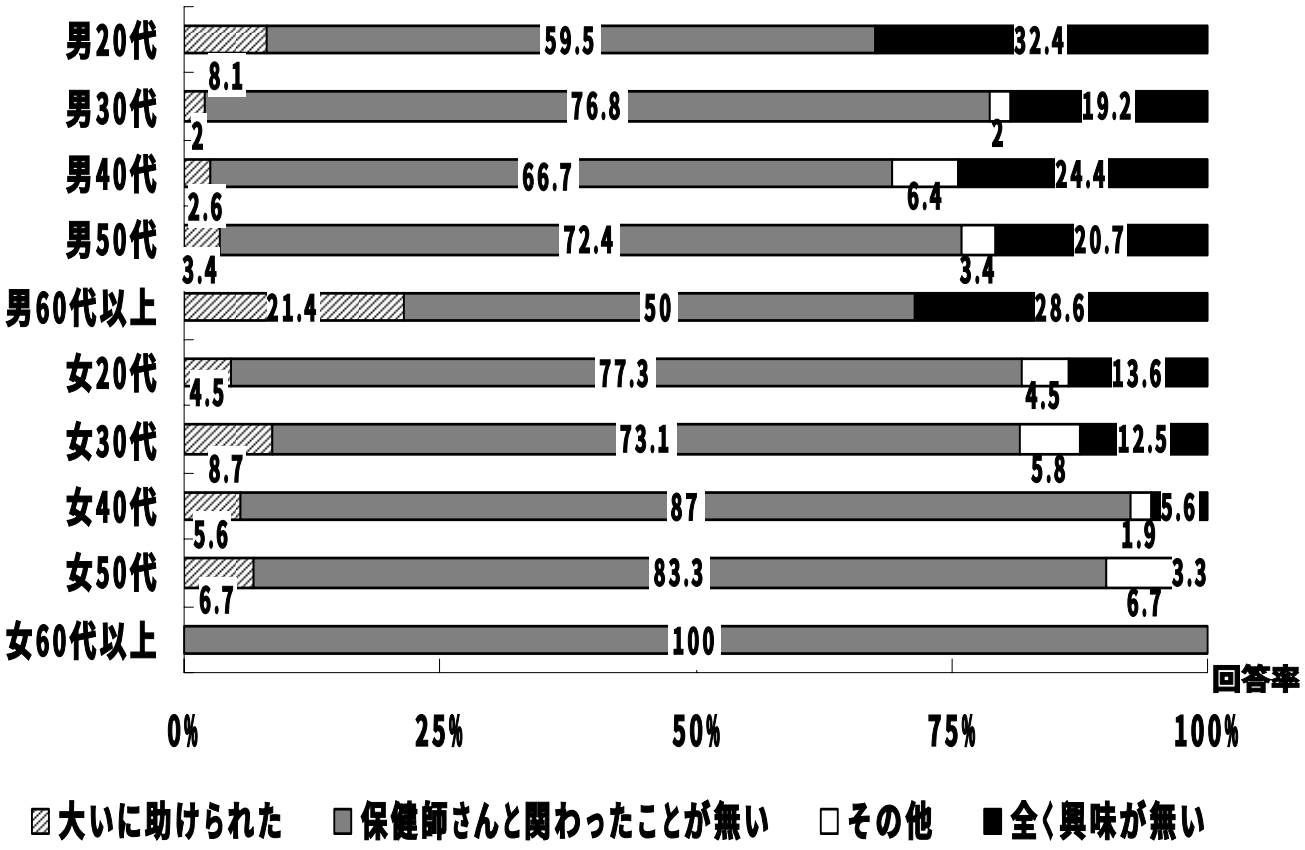


図 36　性・年代別による保健師の保健活動の満足度に対する理由

表 5　　保健活動に対するその他意見

【満足意見】 n＝4
乳幼児の健康について相談したことがある
知人に保健師がいて、相談に乗ってもらっている
直接関わったことはないが、町全体の雰囲気として健康を意識し始めたことを感じている
個々の保健師は頑張っていると思う

【不満意見】 n=13
力量不足（現場経験に乏しすぎる）
予定した訪問日を保健師が忘れていた
昔、乳児検診の時、古い情報しか持っていなかった（勉強不足）
乳がん検診などの実施を全く教えてくれなかった
保健師が少なく、効率的な活動が出来ていないように感じる
お世話になっているかどうかがわからない
以前から保健所があったが、保健所が新設され何が変わったのかが不明
産後の家庭訪問をしてもらえなかった、検診時も本当に保健師かと疑問に思うような態度であった
保健師と触れある機会がない
不安を募るような事ばかりを言われた
保健活動をしていてもアピールが足りないと思う、働く独身世代にもっと活動していることを宣伝して欲しい
今以上に活動して欲しい
以前出産した時の保健師の家庭訪問で、納得できる答えをもらえなかった

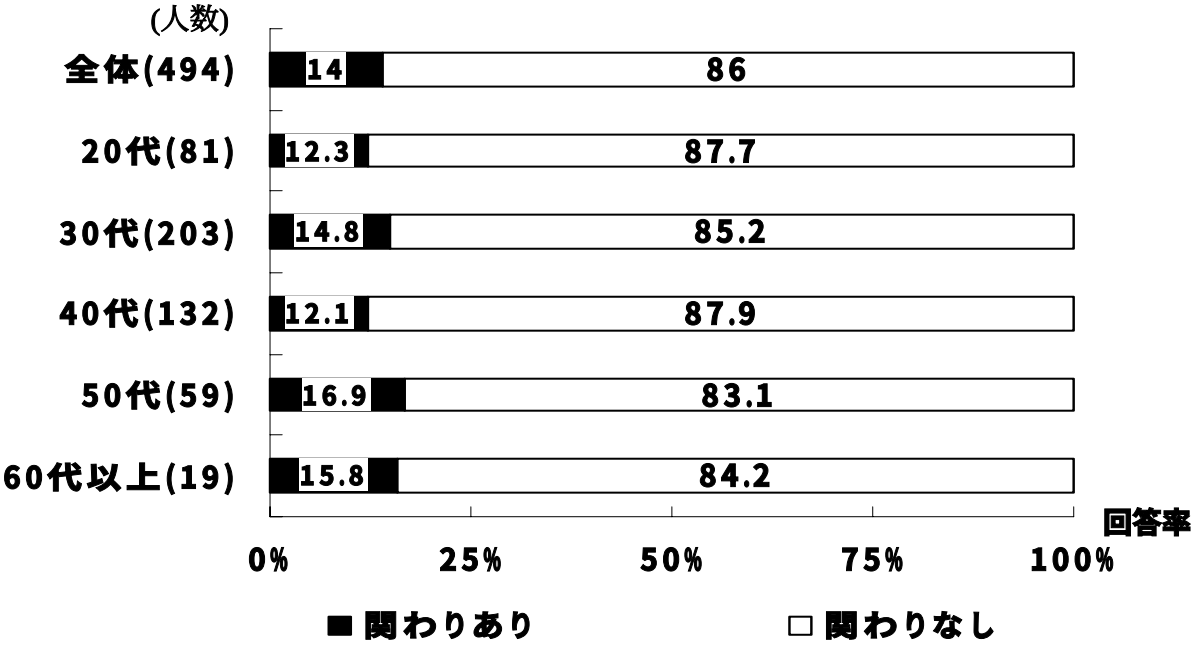


図 37　病院以外で保健師と関わりの有無

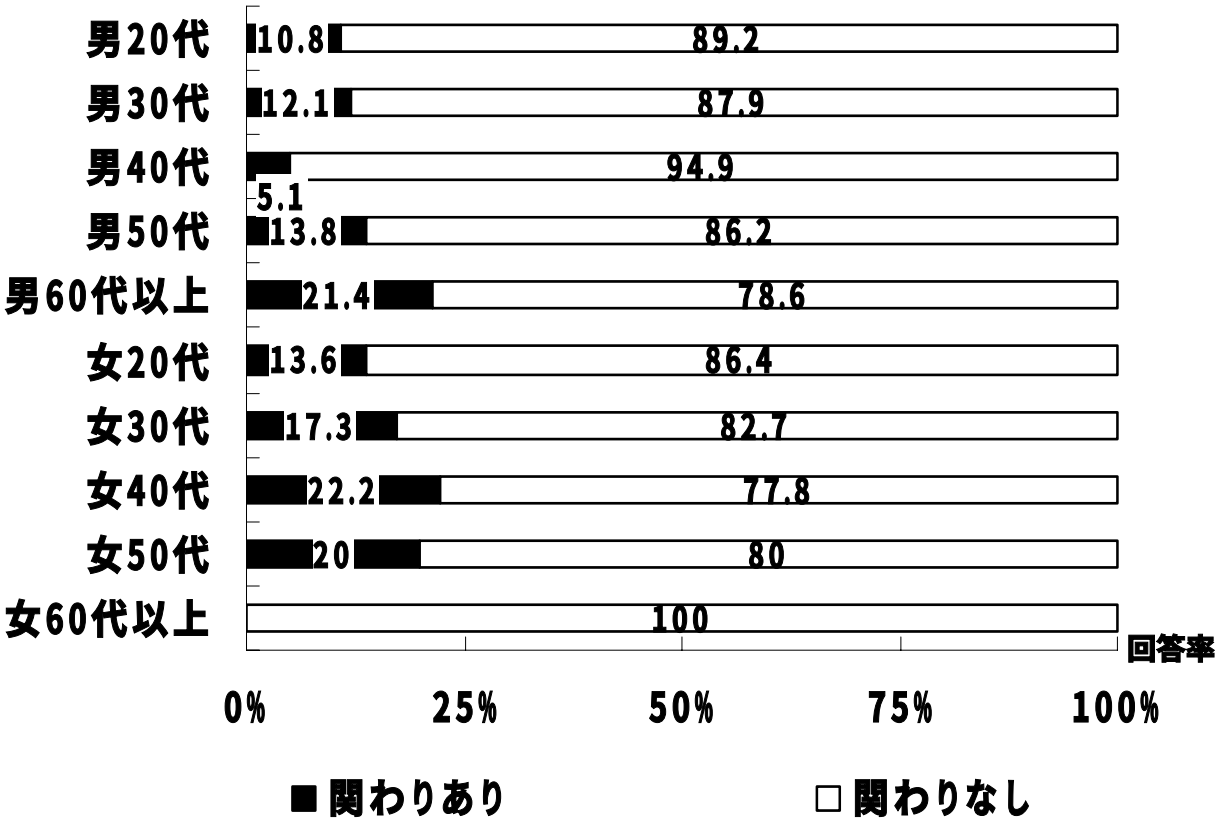
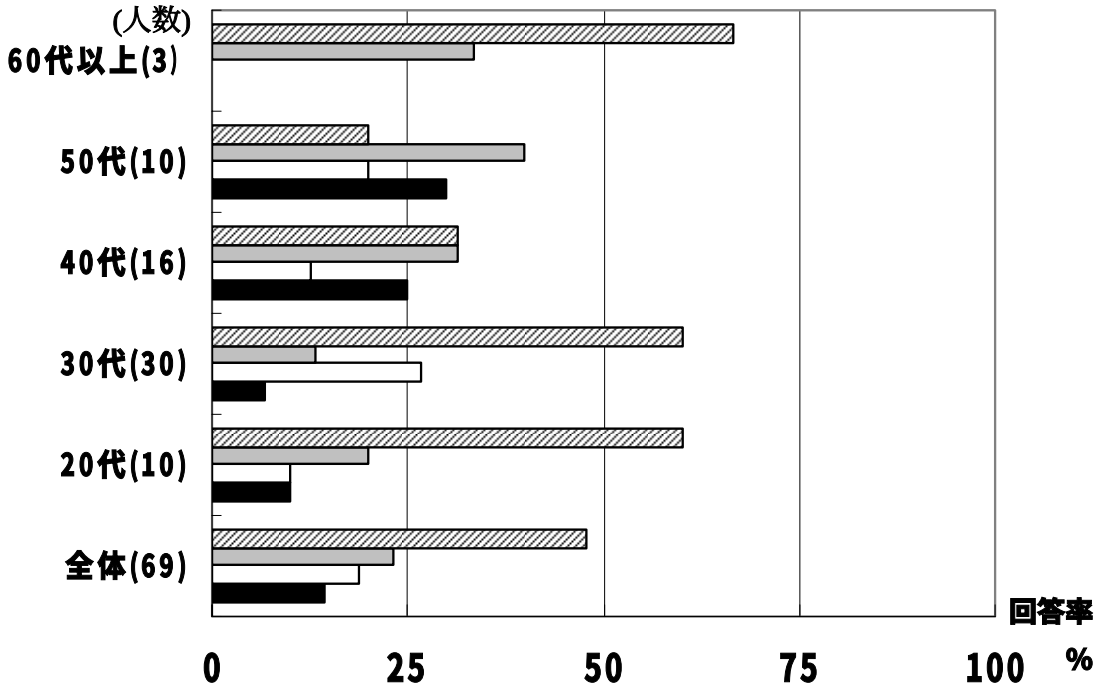
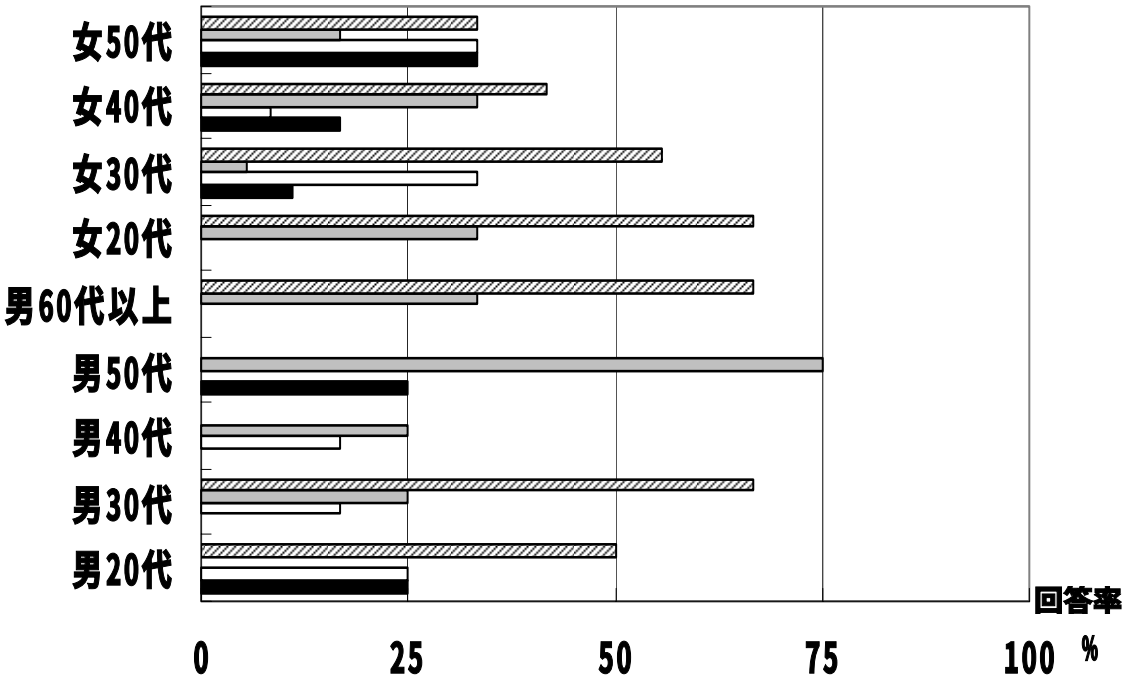


図 38　性・年代別による病院以外で保健師と関わりの有無



(人数)	全体(69)	20代(10)	30代(30)	40代(16)	50代(10)	60代以上(3)
▨ 保健師の家庭訪問	47.8	60	60	31.3	20	66.7
▩ 健康づくりの催しもの	23.2	20	13.3	31.3	40	33.3
□ 健診(保健指導)	18.8	10	26.7	12.5	20	0
■ その他	14.5	10	6.7	25	30	0

図 39　　病院以外で保健師と関わった事柄(複数回答)



	男20代	男30代	男40代	男50代	男60代以上	女20代	女30代	女40代	女50代
▨保健師の家庭訪問	50	66.7	0	0	66.7	66.7	55.6	41.7	33.3
▩健康づくりの催しもの	0	25	25	75	33.3	33.3	5.6	33.3	16.7
□健診(保健指導)	25	16.7	16.7	0	0	0	33.3	8.3	33.3
■その他	25	0	0	25	0	0	11.1	16.7	33.3

図 40　　性・年代別による院以外で保健師と関わった事柄

表 6　病院以外で保健師と関わった事柄（その他意見）n=10

会社の定期訪問	1
取材	1
予防接種・乳幼児健診	7
母親学級	1

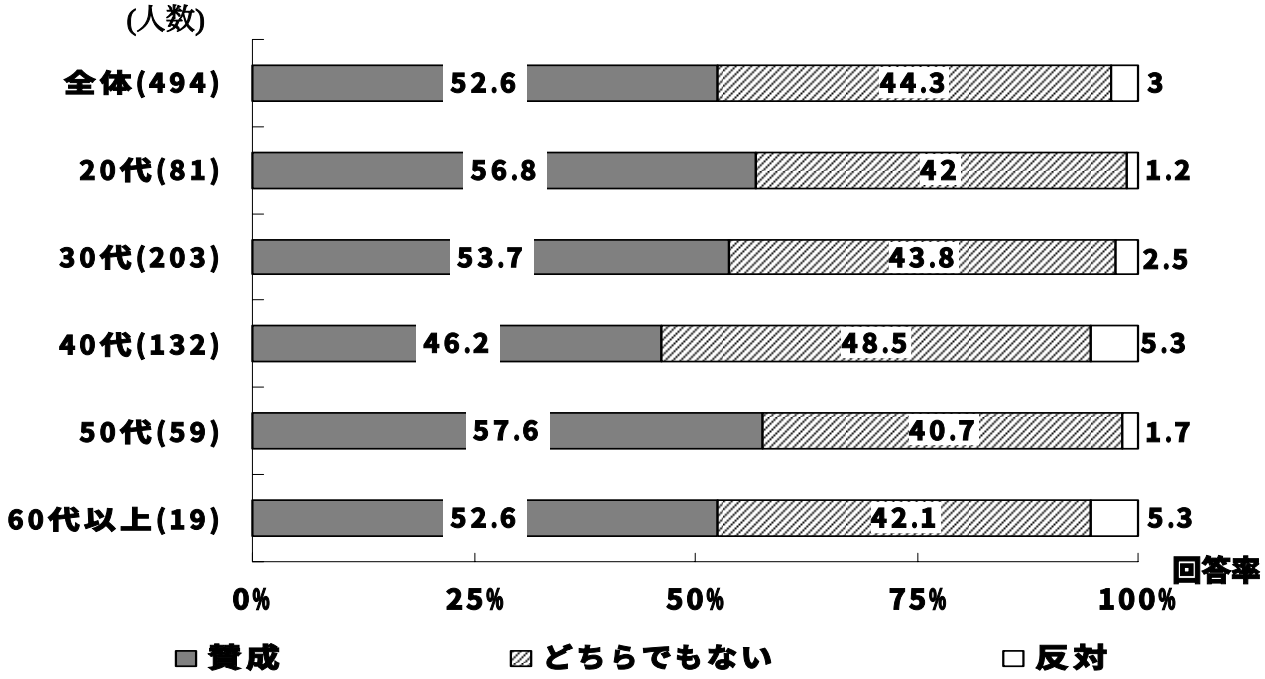


図 41　校区担当制の保健活動に対する意見

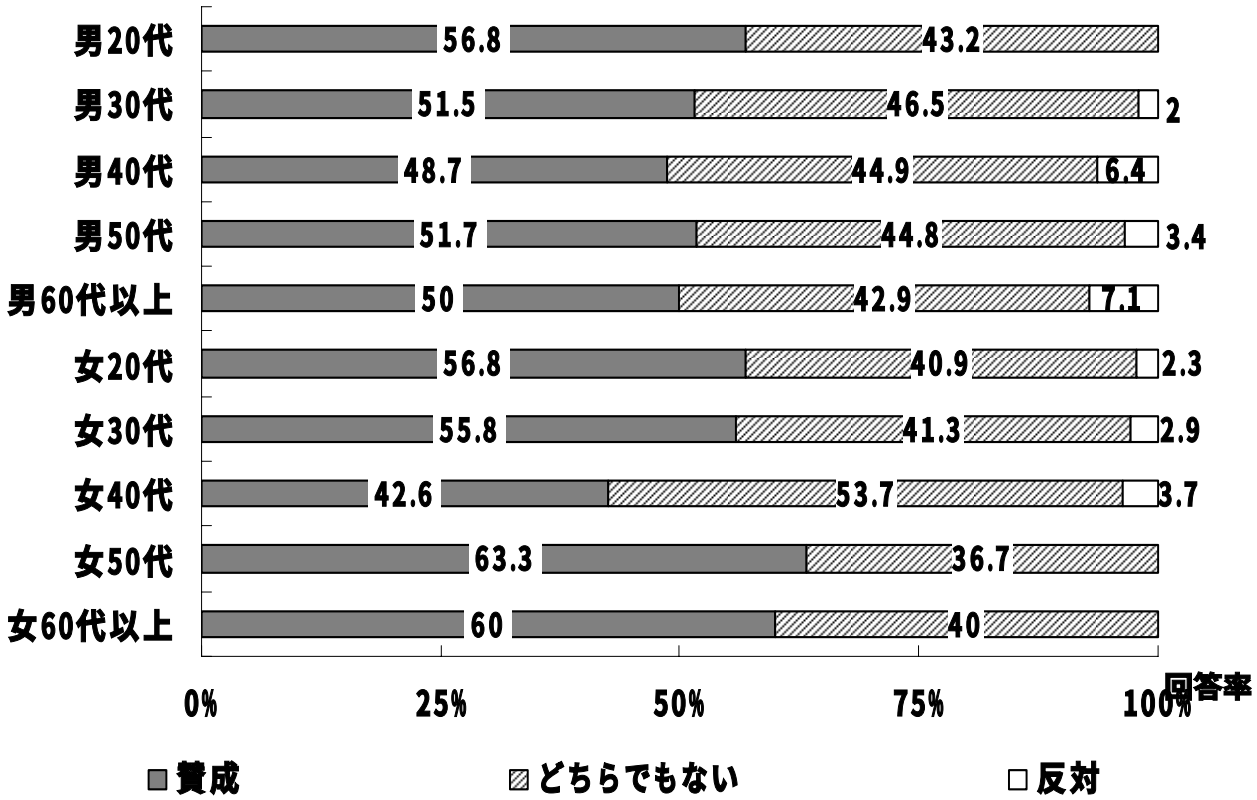
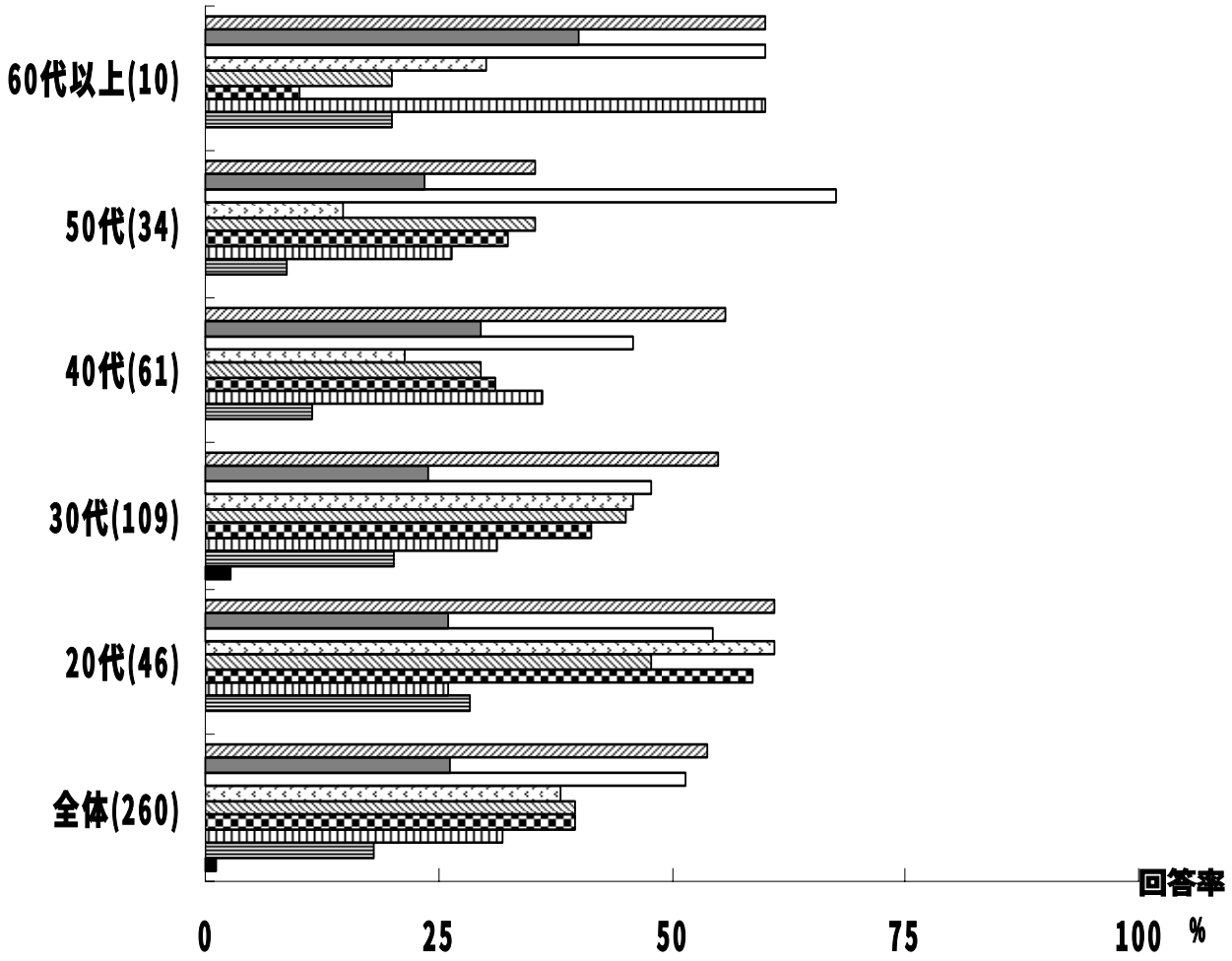
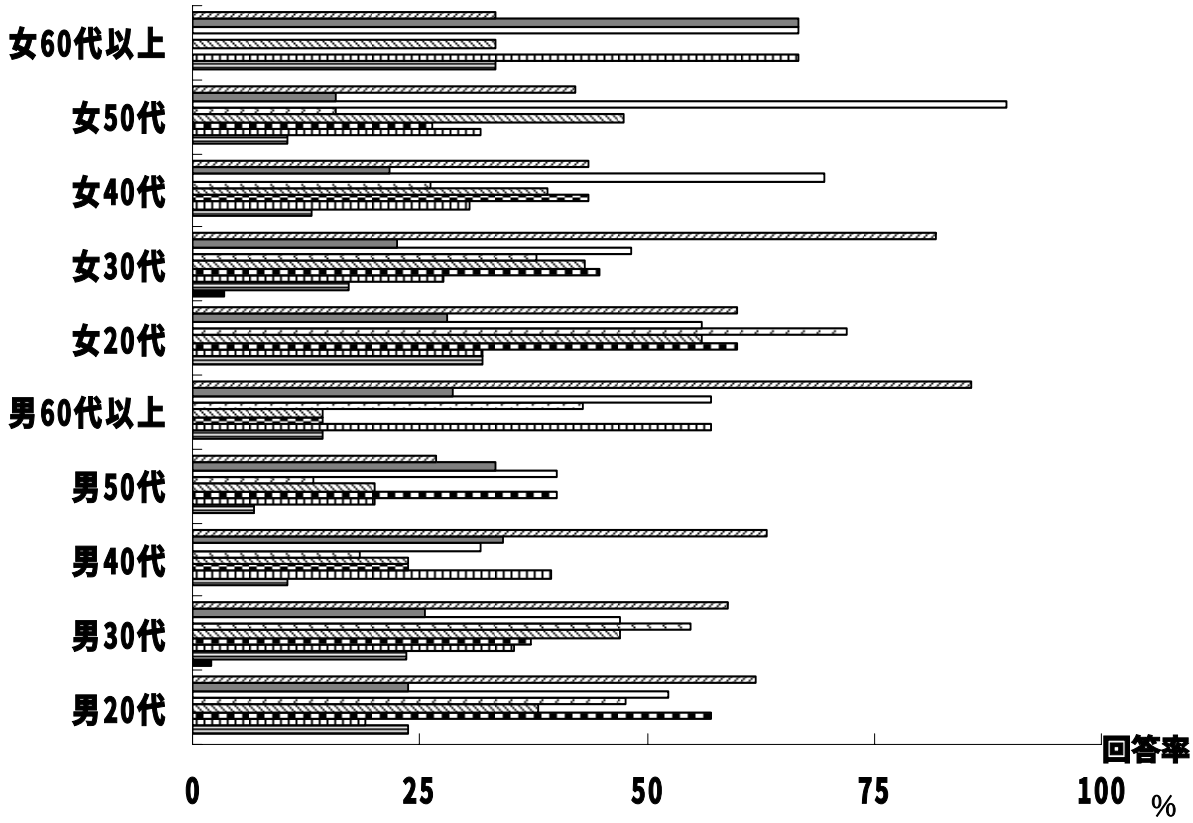


図 42　性・年代別による校区担当制の保健活動に対する意見



(人数)	全体(260)	20代(46)	30代(109)	40代(61)	50代(34)	60代以上(10)
健康相談	53.8	60.9	55	55.7	35.3	60
健康づくりの開催	26.2	26.1	23.9	29.5	23.5	40
老人のサポート	51.5	54.3	47.7	45.9	67.6	60
育児相談	38.1	60.9	45.9	21.3	14.7	30
弱者への家庭訪問	39.6	47.8	45	29.5	35.3	20
住民健診の案内	39.6	58.7	41.3	31.1	32.4	10
健診後の保健指導	31.9	26.1	31.2	36.1	26.5	60
栄養相談	18.1	28.3	20.2	11.5	8.8	20
その他	1.2	0	2.8	0	0	0

図 43　保健師への希望（複数回答）

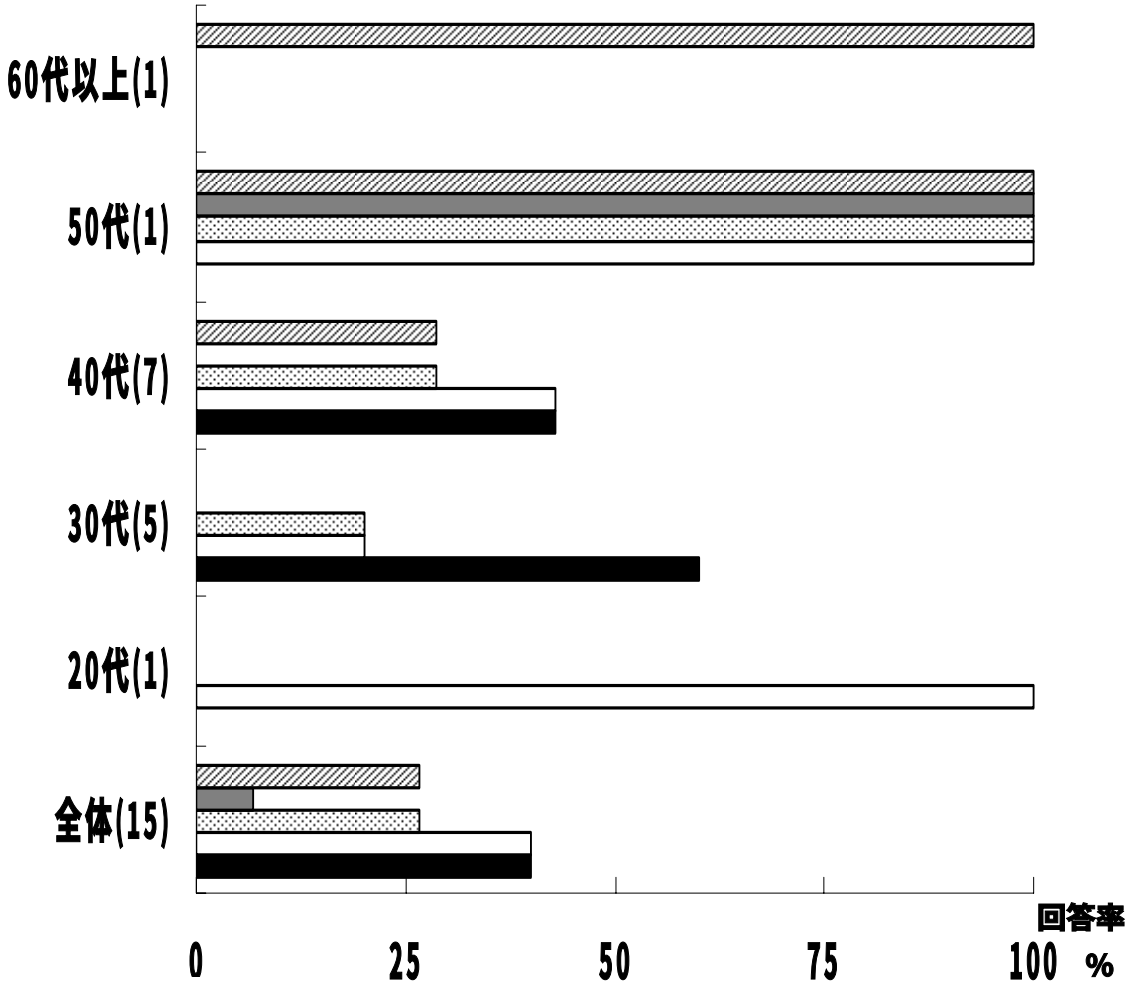


	男20代	男30代	男40代	男50代	男60代以上	女20代	女30代	女40代	女50代	女60代以上
健康相談	61.9	58.8	63.2	26.7	85.7	60	81.7	43.5	42.1	33.3
健康づくりの開催	23.8	25.5	34.2	33.3	28.6	28	22.4	21.7	15.8	66.7
老人のサポート	52.4	47.1	31.6	40	57.1	56	48.3	69.6	89.5	66.7
育児相談	47.6	54.9	18.4	13.3	42.9	72	37.9	26.1	15.8	0
弱者への家庭訪問	38.1	47.1	23.7	20	14.3	56	43.1	39.1	47.4	33.3
住民健診の案内	57.1	37.3	23.7	40	14.3	60	44.8	43.5	26.3	0
健診後の保健指導	19	35.3	39.5	20	57.1	32	27.6	30.4	31.6	66.7
栄養相談	23.8	23.5	10.5	6.7	14.3	32	17.2	13	10.5	33.3
その他	0	2	0	0	0	0	3.4	0	0	0

図 44　性・年代別による保健師への希望（複数回答可）

表 7　保健師への希望（その他意見）n=2

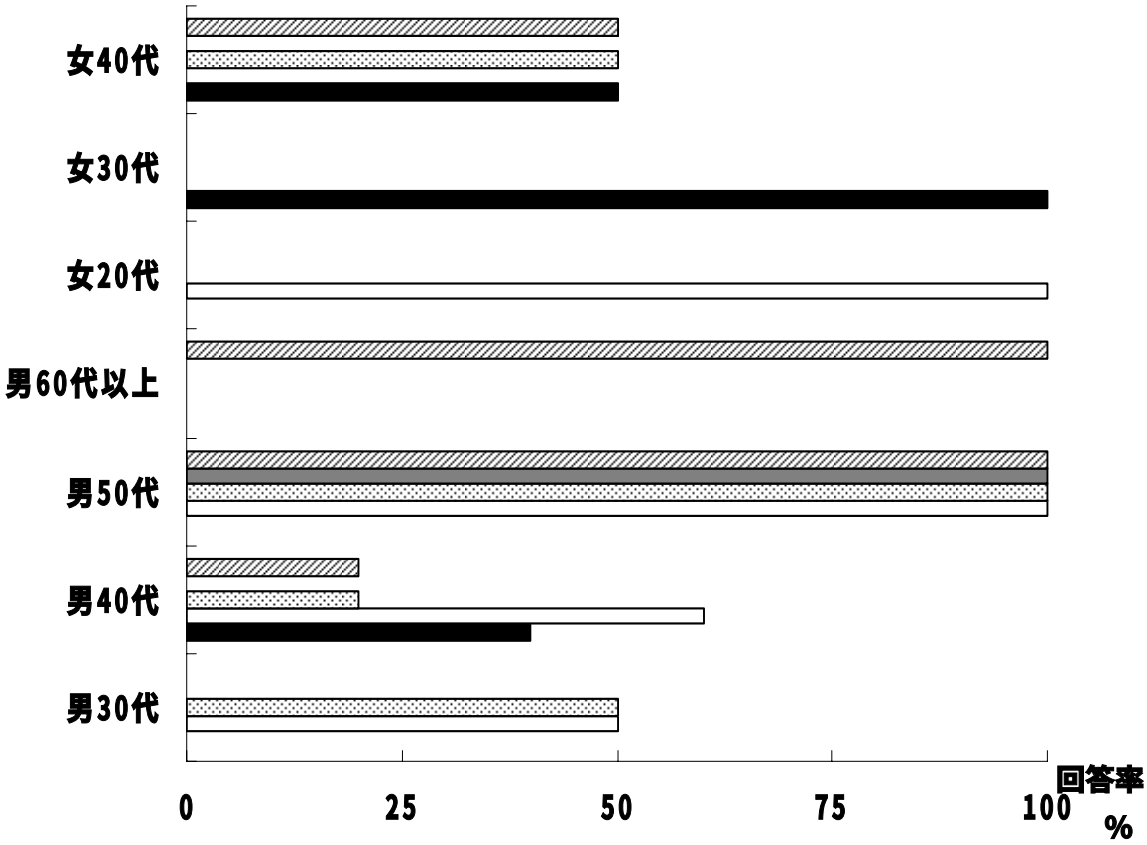
幼児虐待かどうかわからない所があるので、相談に乗って欲しい
病院や民生委員などの横との連携をもって活躍して欲しい



(人数)

	全体(15)	20代(1)	30代(5)	40代(7)	50代(1)	60代以上(1)
▨余計なおせっかい	26.7	0	0	28.6	100	100
■時間的余裕がない	6.7	0	0	0	100	0
▩情報を知られたくない	26.7	0	20	28.6	100	0
□今の保健制度で十分	40	100	20	42.9	100	0
■その他	40	0	60	42.9	0	0

図 45　　校区担当制の保健師に反対の意見　(複数回答可)



	男30代	男40代	男50代	男60代以上	女20代	女30代	女40代
▨余計なおせっかい	0	20	100	100	0	0	50
■時間的余裕がない	0	0	100	0	0	0	0
▩情報を知られたくない	50	20	100	0	0	0	50
□今の保健制度で十分	50	60	100	0	100	0	0
■その他	0	40	0	0	0	100	50

図 46　性・年代別による校区担当制の保健師に反対の意見
（複数回答可）

表 8　校区担当制の保健師に反対の意見(その他意見)　n=6

財源不足
本当に役に立つか不明、税金の無駄使い
その分市民に税金などの負担がかかりそう
システムとして機能するとは思えない
もっと他にすることがあるのではないか
税金の無駄、以前は不要であったのに急になぜ必要になったのか

4　2 回の住民調査の比較

第 1 回目(3 月)と第 2 回目(10 月)の住民アンケート結果で質問項目が同じ内容に関しての比較を行った。

4.1　中核市の認知度の比較

図 46 に中核市の認知度の比較を示す。半年間で前回の認知度よりも 17%増えており,認知度は上がっているものの今だ十分な認知度には達していない。今後さらなる認知度アップの思案が求められる。

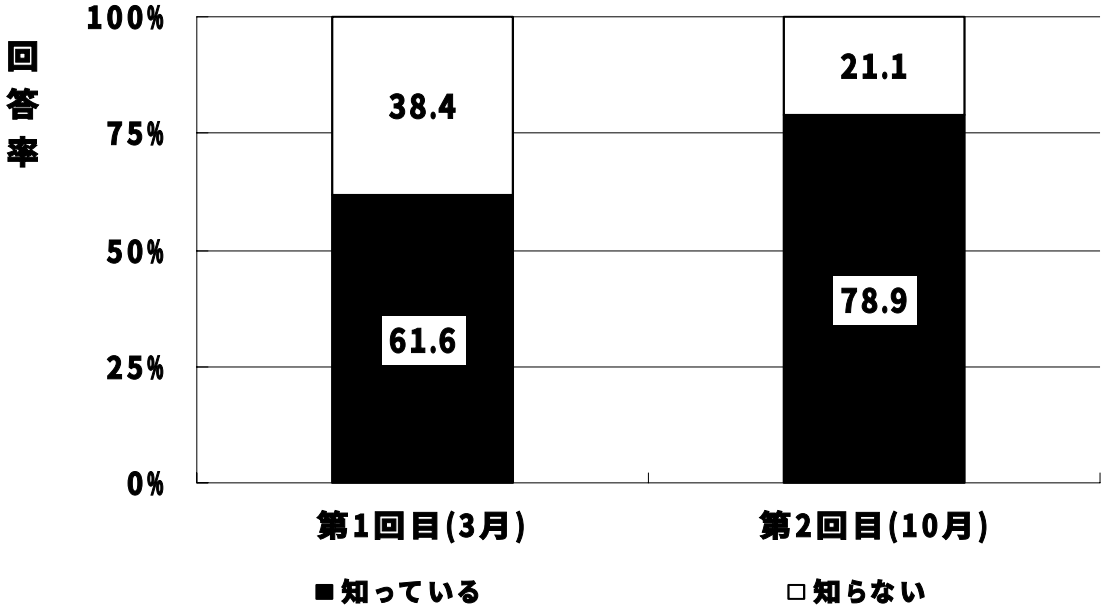
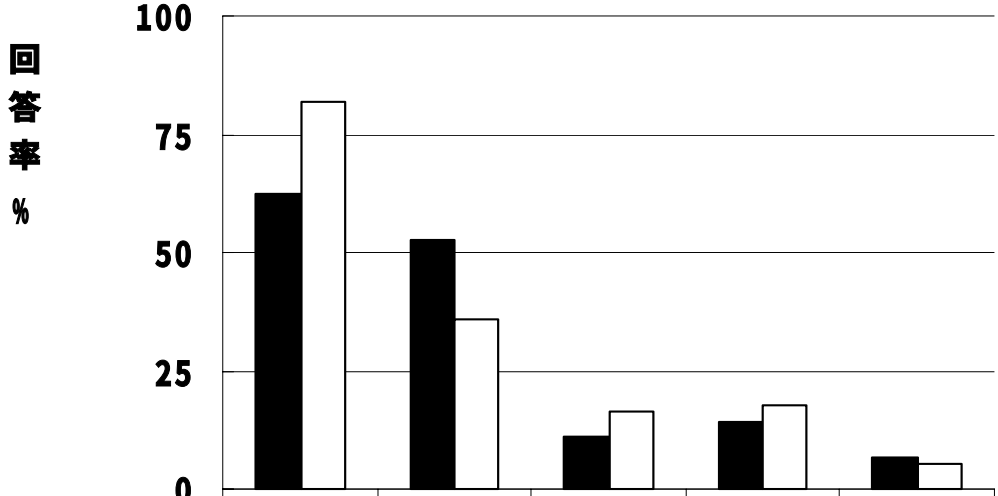


図 46　中核市認知度の比較

4.2　中核市の情報入手手段の比較

図 47 に中核市の情報入手手段の比較を示す。図 47 に前回と今回の調査の比較をしているが，2 回目の調査では，前回よりも新聞・ＴＶの報道による割合が少し減ったぶん、ポスターや知人・町内会からの入手手段が多くなっていた。少しずつ市民生活の場所に「中核市」が浸透していると伺われる。

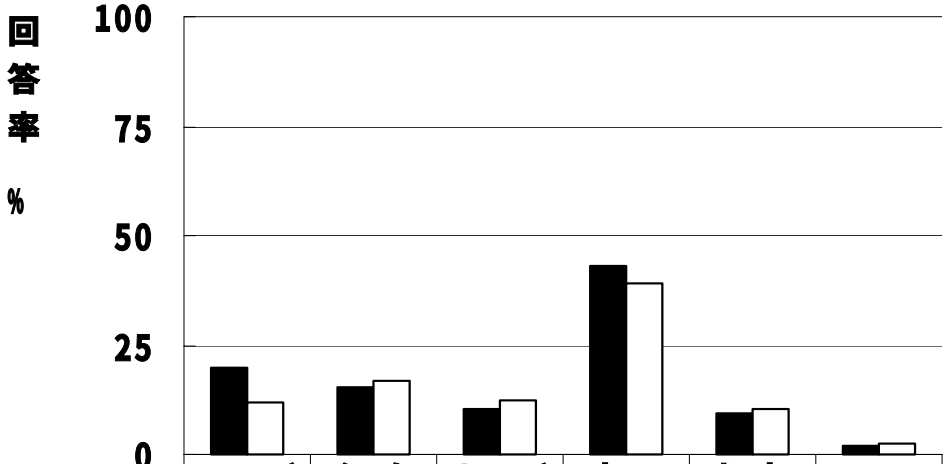


	広報誌(市政だよりなど)	新聞･TV	ポスター	知人･町内会から	その他
■第1回目(3月)	62.3	52.7	11.1	14.3	6.8
□第2回目(10月)	81.8	35.9	16.4	17.7	5.4

図 47　中核市情報入手手段

4.3　中核市への期待の比較

図 48 に前回と今回の中核市への期待の比較を行った。前回はサービスの効率化や市の活性化の意見が多かったが,今回は市の活性化が幾分か減ったが依然として最も多い期待内容であった。今回は，保健関連が含まれる“きめ細かな行政サービスの効率化”,“まちづくり”,“都市計画”が前回よりもわずかに多い意見であった。

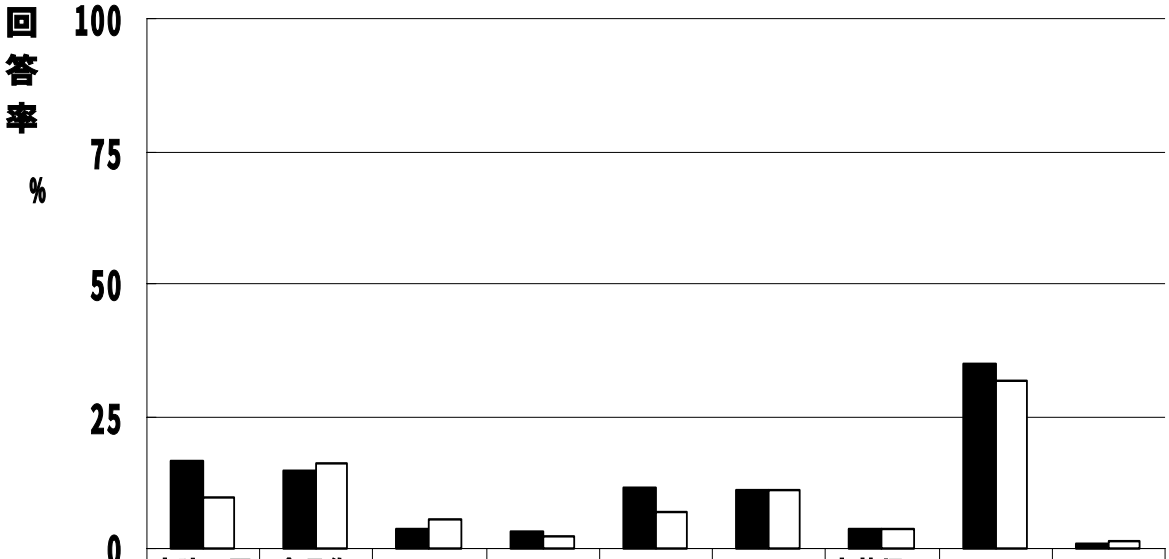


	サービスの効	行政サービ	まちづくり	市の活性	都市計画	その他
■第1回目(3月)	19.9	15.1	10.5	43.2	9.5	1.8
□第2回目(10月)	12.1	17	12.3	38.9	10.5	2.4

図 48　中核市への期待の比較

4.4　新設された保健所への期待の比較

図 49 には新設された保健所への期待の比較を示した。今回は食品衛生・食中毒予防や結核・感染症対策で少し上昇が見られた。最近話題になっている汚染食品の流行により特に食に対する関心が高いと考えられる。また，健康づくりに関しては前回よりも若干下がったが，依然として最も高い保健所に対す期待内容であった。今回の選択肢項目に“特にない”を設け,全体の約 12%に該当する意見であったため，今回の意見が全体的に少なく出ていると推測される。



	病院の開設許可と監視	食品衛生･食中毒予防	結核･感染症対策	性感染症相談	特定疾患患者支援	乳幼児相談	未熟児医療･障害児育成医	健康づくり	栄養相談
■第1回目(3月)	16.4	14.6	3.8	3.3	11.3	11	3.8	35	0.8
□第2回目(10月)	9.5	16.2	5.7	2.4	6.9	11.1	3.6	31.8	1.2

図 49　新設保健所への期待の比較

4.5　健康情報の比較

図 50 には健康づくりに関する案内をみたかどうかの比較を行った。今回の調査では“中核市になってから健康づくりの案内をみたかどうか”と条件を絞っており,かつ半年しか経っていないため,前回よりも“見た”と答えた割合が少なかったと推測される。

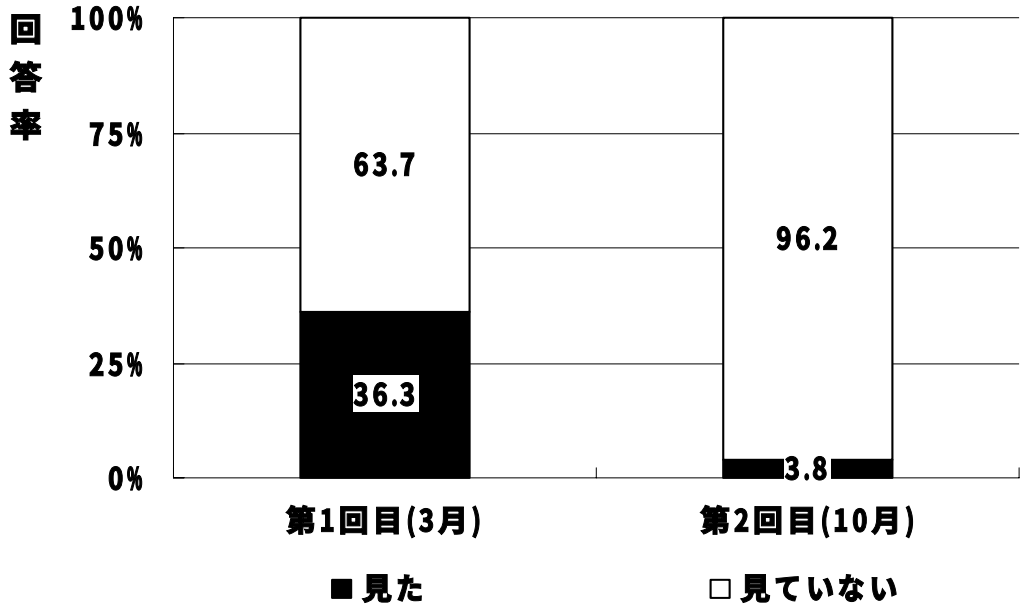


図 50　健康づくりの案内を見たか否かの比較

図 51 には健康づくりへの参加の比較を示した。今回は“中核市となって健康づくり教室に参加したか”と条件設定をしており，かつまだ半年間しか経過していないために前回よりも参加者は少なかったと推測される。

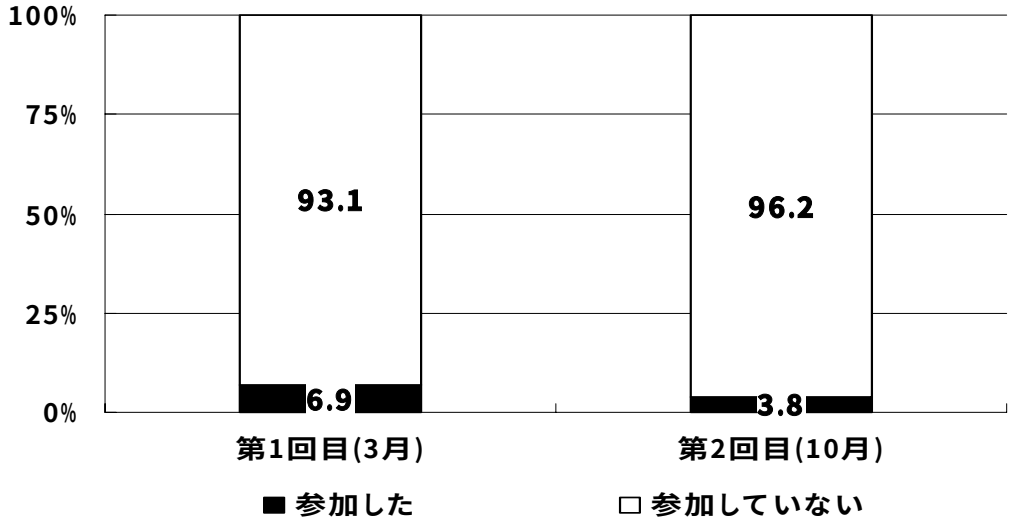


図 51　　健康づくりへの参加の比較

5　まとめ

中核市となり半年後の中核市に関する第 2 回目の住民アンケート調査を行った。第 1 回目とは異なり，調査範囲を久留米市に限定し，中核市・保健所の認知度や保健活動に関しての設問を主体とした。

中核市の認知度は始まる以前と比較すると高くなったが，理解度に関しては名前だけ知っている意見が多く，十分にその意味は浸透していなかった。今回の中核市では約 2000 の事務権限が県から久留米市に移譲されており，その 6 割が保健関連 [5) 6)] とされるにもかかわらず，住民の保健所新設の認知度は約 4 割弱と低いものであった。保健所に希望することとして最も多かったのは健康づくりに関してであり，保健師に希望する事柄でも同様に最も多かった。しかし，実際には市が主催する健康づくりには参加が少なく，また保健所が主体として行っている“健康づくり推進委員”の認知度は低く，行政と市民には大きな溝があるように感じられた。

住民が保健師に希望することは，健康教育や老人のサポートなど世代によって異なっており，住民の声を反映させるには住民の一人一人に合わせたテーラーメイドの保健事業が求められている。そのニーズに答えるひとつの試みとして，校区担当制の保健活動であるが，賛否両論はあるものの行政が住民生活に近づける打開策になると期待される。

今回の 2 回目の住民調査結果がこれからの久留米市の保健行政の発展に寄与できることを期待する。

参考文献

１）藤野善久：厚生労働省科学研究費補助金　政策科学相互研究事業(政策科推進研究事業)　Health Impact Assessment に関する包括的研究　平成 18 年度総合研究報告書　平成 19(2007)年 3 月；p2-146

２）藤野善久,松田晋哉：Health Impact Assessment の基本的概念及び日本での今後の取り組みに関する考察.日本公衆衛生雑誌　第 2 号,2007；54：73-79

３）藤野善久,松田晋哉：「新しい自律的な労働時間制度」に関する Health Impact Assessment.産業衛生学雑誌,2007；45-53

４）星子美智子,原邦夫,石竹達也：中核市に関する住民アンケート調査報告書.久留米大学医学部環境医学講座発行,2008 年 4 月

５）久留米市役所：中核市久留米をめざして～平成 20 年 4 月スタート～.

６）毎日新聞,記事：中核市・久留米【1】,2008 年 3 月 24 日号.

【「中核市」導入に関するアンケート N0 2】

平成 20 年 10 月 03 日

＝アンケートへのお願い＝

久留米市はこの平成 20 年 4 月 1 日から「中核市」になりました。

「中核市」とは、平成 6 年の地方自治法の改正によって出来た制度で、「中核市」になると、民生や保健衛生、環境、都市計画、教育などの分野で、約 2000 の事務が県から市に移され、久留米市ではこれまでに比べ、より自主的・主体的に、地域の実情に合わせた街づくりを目指しています。

久留米市が掲げる「中核市」になったことへのメリットとして、

1) 行政サービスの効率化･･･これまで県で認定していた身体障害者手帳の発行や母子･寡婦福祉資金の貸付けを、市が一括して行なうようになり事務処理のスピードアップになります。

2) きめ細かな行政サービスの提供･･･保健所を新設することで保健サービスが市に一元化され、一貫した保健指導が行なえます。

3) 独自のまちづくりの展開･･･屋外広告物の規制を市が条例を制定して行なえることで、景観や環境に配慮したまちづくりを推進できます。

4) 市全体の活性化･･･市のイメージの向上、市全体の活性化や経済振興につながる波及効果が期待されます。

5) 地方分権時代にふさわしい都市経営の推進･･･外部の監査が入ることでクリーンな行政となります。

を、挙げております。

私たち、久留米大学医学部環境医学講座では、久留米市が「中核市」に移行したことで住民の皆さんにどのような影響を及ぼしたか、皆さんのご意見を基に健康への影響評価を行い、「中核市」の評価と久留米市への提案を考えております。今回のアンケート調査は中核市移行以前(平成 20 年 3 月)に引き続いて 2 回目となりますが、現在の皆様の身辺の変化や考え踏まえてアンケートお答え頂けると幸いです。どうぞ、宜しくお願い致します。

連絡先）〒830-0011　福岡県久留米市旭町 67　　電話 0942(31)7552
久留米大学医学部環境医学講座
星子 美智子　　原　邦夫　　石竹　達也

問１　前回(平成 20 年 3 月)の本アンケートにお答え頂きましたか？

１．はい　　２．いいえ

問２　本年(平成 20 年)4 月から久留米市が『中核市』に移行したことは
ご存知ですか？

１．はい　　２．いいえ

1. 「はい」と答えた方へ　以下の２つの質問にお答え下さい。
具体的にはどのようにして『中核市』移行を知りましたか？
複数個の回答でも構いません。

１．　市制だよりなどの広報
２．　新聞や TV
３．　町に掲げている垂れ幕やポスター
４．　知人や町内会での情報
５．　その他（　　）

どの程度『中核市』のことを認識していますか？

１．　他人に説明出来るほどよく知っている。
２．　少しぐらいは知っている。
３．　名前ぐらいは知っているが、具体的にはわからない。

問 3『中核市』となり、何を最も期待しますか。<u>1 つだけ選んで下さい。</u>
また、実際に『中核市』となり変わったと実感する事柄を選んで下さい。
複数個の回答でも構いません。

1. 行政サービスの効率化 (例；身体障害者手帳の発行や福祉資金の貸付けなどの事務処理のスピード化）
2. きめ細かな行政サービス提供（例；保健指導のサービスの向上）
3. 独自のまちづくりの展開 (例；屋外広告物の規制、大気汚染防止、景観や環境に配慮した町)
4. 市全体の活性化（例；市全体の活性化や経済の振興）
5. 分権時代にふさわしい都市経営の推進
(例；外部からの監査人が入り、行政の透明性の向上)

６．その他（　　）
７．特になし

最も期待すること(１個)　（　　）
変化したこと　(　　)

問４　久留米市は『中核市』となり、新しく保健所が設置されました。
このことはご存知でしたか？

１．はい　　２．いいえ

４－１）新設された保健所の場所はご存知でしょうか？

１．はい　　２．いいえ

４－２）保健所の業務のなかであなたが最も期待することはなんでしょうか。
下記より一つだけ選んで下さい。　また、今年４月より実際にあなたが利用した項目を下記より選んで下さい。複数個でも構いません。

１．　病院・診療所の開設許可や監視指導に関すること
２．　食品衛生・食中毒の予防に関すること
３．　結核・感染症の予防、まん延化防止に関すること
４．　性感染症の相談・検査に関すること
５．　特定疾患患者に対する総合的な支援に関すること
６．　乳幼児健診、発達相談に関すること
７．　未熟児養育医療、障害児育成医療、小児慢性特定疾患の給付に関すること
８．　健康づくり、各種がん検診、予防接種に関すること
９．　栄養指導に関すること
10.　特に何もない

最も期待する項目（1個）　(　　)
利用した項目　（　　）

問５　『中核市』となり保健所機能が活発化したと実感されていますか？

１．はい　　２．いいえ

１.「はい」　と答えられた方は、どのような時に感じられますか？
下記より選んで下さい。複数個でも構いません。

１．　保健所の窓口が利用しやすくなったから
２．　市の保健師さんが校区に来てもらうことが多くなったから
３．　市の広報や回覧板などに健康に関する情報をよく入手するから
４．　その他（　　）

問６『中核市』となって以降、市が主催する健康づくりに関する催し物の案内・広報，掲示板及びポスターなどはみかけますか？

１．はい　　２．いいえ

問７『中核市』となってから市が主催する健康づくりに関する催し物へ実際に参加しましたか？

１．はい　　２．いいえ

２．「いいえ」 と答えられた方への質問です。
今後、市が主催する健康づくりへの催し物に参加する予定ですか？

１．はい　　２．いいえ

問８　「健康は自分で守り、つくる」ことを実践するため校区によっては『健康づくり推進員』が市民の皆さんの中から選ばれ、保健所が主催する講習会に参加しもらっています。このことを、ご存知でしょうか？

１．はい　　２．いいえ

問９　保健所が新設されてから久留米市の保健師さんは増員され(約 60 人)、今後校区ごとで保健師さんを配置し、住民の皆さんがより健康的な生活が送れる様にアドバイスをしたりと、地域住民の健康管理を目指しています。

９－１）今までの保健師さんの保健活動にあなたは満足していますか？

１．はい　　２．いいえ　　３．どちらでもない

理由は何ですか？

１．　大いに助けられた経験がある
２．　保健師さんとかかわったことがない
３．　全く興味がない
４．　その他(　　)

10－２）今までに保健所・地区の保健センター・病院以外で保健師さんとかかわったことはありましたか？

１．はい　　２．いいえ

１．「はい」　と答えたかたはどのような形でかかわりましたか？
複数個の回答でも構いません。

１．保健師さんによる家庭訪問
２．健康づくりに関する催しもの
３．健康診断(住民健診)の後の保健指導

４．その他（　　）

10－３）将来、専属の保健師さんが校区ごとに配置される『校区担当制の保健師活動』にあなたはどのように思いますか。

１．賛成　　２．反対　　３．どちらでもない

１.「賛成」 を選ばれたかたは、どのようなことを保健師さんに望みますか。複数個の回答でも構いません。

１．　地区住民の健康相談にのって欲しい
２．　校区内で健康づくりをもっと開催して欲しい
３．　(独居)老人宅を定期的に訪問して健康面のサポートをして欲しい
４．　育児の相談にのって欲しい
５．　乳幼児や老人がいる家庭を訪問し、虐待を受けていないかどうか調査して欲しい
６．　住民健診の案内をわかり易く説明し、受診を促して欲しい
７．　住民健診後に保健指導をして欲しい
８．　栄養指導をして欲しい
９．　その他（　　）

２.「反対」 を選ばれ方は、校区担当制の保健師さんを配属するのに反対の理由はなんでしょうか。複数回答でも構いません。

１．自分の健康問題について介入して欲しくない(おせっかい)
２．保健師さんの介入を受け入れる時間的余裕がない
３．個人情報が保健師さん(第３者)に渡って欲しくない
４．今の保健師体制で十分である
５．特にない
６．その他（　　）

<u>あなたご自身への質問です。</u>

問 11　現在のお住まいはどちらですか？　　久留米市（　　）町

問 12　性別を教えてください。　　１．男性　　2．女性

問 13 年齢はおいくつですか？

１．20 歳未満　　2．20 歳代　　3．30 歳代　　4．40 歳代
5．50 歳代　　6．60 歳代　　7．70 歳代以上

ご協力ありがとうございました。